



福島縣養蠶研究會日誌

第壹會



明治十六年四月



明治十六年四月

福島縣養蠶研究會日誌
第壹會

養蠶研究會

抑モ本會ノ趣旨タル福島縣下伊達郡ノ養蠶篤志者渡邊源兵衛大橋伊三郎淺野徳右衛門ノ諸氏之レカ發起トナリ實地蠶業ニ從事セシ所ノ諸氏ヲ縣會議事堂ニ會シ各自數十年ノ間實際經驗セシ所ノ養蠶事業ヲ縷述シ以テ相互ニ其業ヲ研究磨勵スルニ在ルモノトス是レヲ以テ世人傍聽ヲ禁セス自由ニ其會談ヲ聽キ養蠶事業ノ日ヲ逐フテ改良ニ赴キ本縣下ヲシテ美名ヲ博フセントス是レ蓋シ養蠶篤志者ノ此舉アル所以ナリ故ニ此日誌ヲ目シ以テ小冊トナス

明治十六年四月

養蠶研究會ニ付議事堂拜借願

本縣下國産ノ内利益ヲ多ク得ルモノハ往古ヨリ養蠶ヲ以テ業トシ全國ニ冠タル物産ヲ製造シ明治十三年始メテ横濱ニ生糸繭ノ共進會ニ於テ其功ヲ著ハセヨリ競フテ同業ニ勉勵シ尋テ明治十四年本郡掛田村ニ於テ生絲繭蠶種ノ共進會ヲ開設シ復タ各

其功ヲ得タルカ爲メニ甘ンシテ精粗ヲ顧ミサルモノナキニシモ非ス且生糸ノ如キニ至テハ故ラニ内部ニ粗タルモノヲ以テ外面ニ精品ヲ以テ是レヲ掩ヘ而シ商人ヲ煩スノミナラス曠々タル國產ヲシテ自然ト外商ノ信用ヲ破棄スルモ少ナシトセズ實ニ慨歎ニ堪ヘサル處ナリ之ヲ以テ郡内ノ同業者ヲシテ本縣ノ議事堂ニ集會シ生糸ノ改良ヲ始メ養蠶飼養ノ適否ヲ談シ其是非スルモ衆議ノ多キヲ採リ眞ニ國產ヲ進歩スルノ鏡下ニ照ス如クナラント存候依テ前條御照察ノ上議事堂御貸與及ヒ議事摘要ノ件々等何分ノ御指揮ヲ奉仰度此段奉願上候也

明治十六年四月四日

同	岩代國伊達郡梁川村	淺野 徳右衛門
同	掛田村	菅野 平右衛門
同	同	大橋 伊三郎
同	同	菅野 賢助
同	同	菅野 休右衛門

同	同	大橋 重左衛門
同	同	大橋 濟
同	同	佐藤 源四郎
同	梁川村	中木 儀左衛門
同	同	大竹 宗兵衛
同	同	八卷 長右衛門
同	同	大竹 權右衛門
同	同	中木 孝平
同	栗野村	池田 友吉
同	二ノ袋村	菊地 喜左衛門
同	同	菊地 彦左衛門
同	同	遠藤 喜三郎
同	同	菊地 清四郎

○明治十六年四月十二日午前十一時開會

議事ニ先チ各自抽籤ヲ以テ其番號ヲ定ムル左ノ如シ

廿一番	十九番	十七番	十五番	十三番	十一番	九番	七番	五番	三番	壹番
栗野村	伊達川村	向川原村	中野村	伊達野村	伊達黒村	掛田村	山戸村	伊達岡村	長岡村	福島町
大友治郎兵衛	中木孝平	桃井與五右衛門	加藤勇二郎	池田友吉	宍戸重兵衛	菅野平治	八島成正	芳賀圓次郎	原太市	佐藤伊三郎
廿二番	二十番	十八番	十六番	十四番	十二番	十番	八番	六番	四番	貳番
長岡村	伊達川村	田澤村	信原村	向川原村	伊達野村	伊達黒村	福島町	小幡村	伊達田村	掛田村
阿部文右衛門	萩原庄四郎	高橋慶藏	谷津市之助	萩原佐重郎	渡邊清助	鈴木彌作	大橋伊三郎	八城權五郎	菅野作次郎	佐久間常右衛門

廿三番	廿五番	廿七番	廿九番	卅一番	卅三番	卅五番	卅七番	卅九番	四十一番	四十三番	四十五番	四十七番
伊達川原村	向川原村	長岡村	伊達黒村	上保原村	伊達野村	伊達黒村	伊達黒村	伏黒村	信夫村	福島町	伊達田村	掛田村
渡邊嘉右衛門	阿部平次郎	渡部虎之助	芳賀甚七	池田市郎兵衛	三瓶良藏	八城太左衛門	鳴原三平	齋藤正五郎	安田延作	三瓶長次郎	大竹甚右衛門	阿部又右衛門
廿四番	廿六番	廿八番	三十番	卅二番	卅四番	卅六番	卅八番	四十番	四十二番	四十四番	四十六番	四十八番
伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村	伊達黒村
佐藤運四郎	佐藤久作	池田三之助	池田長次郎	鈴木嘉兵衛	小野彌右衛門	八城權七	近野元右衛門	渡邊源兵衛	後藤作二郎	横山清次郎	宍戸藤作	小野彌二兵衛

四十九番	伊達川郡	八卷長右衛門	五十番	伊達原郡	三瓶三吉
五十一番	伊達川郡	淺野徳右衛門	五十二番	伊達岡郡	穴戸伴六
五十三番	伊達黒郡	富田幸三郎	五十四番	信夫郡	内池茂右衛門
五十五番	伊達山郡	朝倉鉄藏	五十六番	伊達黒郡	鳴原長五郎
五十七番	信夫郡	佐藤源之助	五十八番	伊達黒郡	谷米金三郎
五十九番	伊達川郡	五十嵐彌五右衛門	六十番	伊達浪郡	高橋久右衛門
六十一番	伊達黒郡	小野長次郎	六十二番	伊達浪郡	佐藤林之助
六十三番	伊達上郡	熊坂宇右衛門	六十四番	伊達浪郡	大波藤兵衛
六十五番	伊達川郡	八卷味右衛門	六十六番	伊達川郡	中木儀左衛門
六十七番	伊達山郡	丹治萬助	六十八番	伊達山郡	丹治梅吉

於各員ヨリ勸業課六等屬大池政氏ニ托シテ仮ニ會頭ノ席ニ着シメ正副會頭ノ投票
 ナナセシニ高点ナルハ左記ノ如シ

十二枚 渡邊源兵衛
 九枚 近野元右衛門

會長	渡邊源兵衛
副會長	近野元右衛門
監事兼調査委員	大橋伊三郎
同	淺野徳右衛門
同	加藤勇次郎
同	齋藤正五郎
調査委員	八島成正
同	鈴木彌作
同	渡邊清助
同	池田友吉
同	芳賀甚七
同	八城太左衛門

於是開場式ヲ行フニ當リ少書記官村上楯朝君ノ御臨場セラレ左ノ演説アリ

抑モ養蠶ノ貴ナル我皇國中第一ノ物産ナリト雖モ未タ改良進歩ノ其度ニ達セサル動モスレハ外人ノ譏リヲ免カレヌシテ貿易市場時ニ失敗ノ憾ナキ能ハサルハ本官ノ實ニ慨歎ニ堪ニサル所ナリ然ルニ今ヤ諸氏ノ其業ニ熱心ナル此譏リヲ免レ貿易市場ノ失敗ヲ挽回シント欲シ此ニ有志養蠶研究会ナルモノヲ開キ以テ之ヲ繁殖盛大ナ圖ントス是レ本官ノ満足ニ堪ヘサル所ナリ諸氏願フハ後來トモニ此會ヲシテ其名ニ戻ラス益其業ヲ講スルノ研究会ヲラシメテ之ヲ

右畢テ會長左ノ答辭ヲ述フ
不肖源兵衛等敢テ國家ノ大計ヲ知ラス唯此業ノ今日ニ急務ナルヲ知リ此ニ養蠶研究会ヲ開キ各其實願ニシテ所ノ經歷ヲ語り飼蠶法ノ改良ヲ計ラントスルニ際シ閣下親シク此場ニ臨ミ賜ラニ懇篤ナル諭言ヲ以テセラル實ニ望外ノ光榮ナリ謹テ答辭ヲ呈ス

右ニテ開場ノ式畢リ

同日午后一時十分開會

會長(渡邊源兵衛)各員ニ向テ陳述ス予不肖ニシテ各員ノ推舉ヲ忝フス實ニ意外ニ出ルト雖モ衆望ニ悖ル能ハスシテ此ニ臨ム諸君之ヲ免サレヨ茲ニ會場ノ齋整ヲ圖リ研究会細則ヲ編制シタレハ書記ヲシテ之レヲ朗讀セシム
書記朗讀ス

養蠶研究会場細則

- 第一條 本會ニ於テハ養蠶ニ關スル事ノミヲ談シ他事ヲ談スルヲ得ス
- 第二條 本會ハ會長正副貳名總員投票ヲ以テ定ムルモノトス
- 第三條 本會ハ總テ會長ノ指揮ニ從フモノトス
- 第四條 會場ノ昇退ハ午前第九時ヨリ午後四時トス
但シ會長ノ見込ヲ以テ時間ヲ伸縮スルコアルヘシ
- 第五條 會員發言セントスルキハ白己ノ番号ヲ呼ビ起テ會長ニ對シ其答ヲ得ベシ
二人以上同時ニ發言スルヲ得ス
- 第六條 會長其說ヲ述ント欲スルキハ副會長ト交代シ會員ノ席ニ着クベシ副會長

モ又其説ヲ述ント欲スルキハ會員ヨリ代ラシムルヲ得此場合ニ於テハ其
一題ヲ終ルノ後ニ非ラサレハ會長ノ席ニ着クヲ得ス

第七條 正副會長事故又ハ疾病等ニテ不參ノ時ハ更ニ投票ヲ以テ會長ヲ定ム

第八條 會談中ハ喫烟ヲ禁ス

第九條 會場ノ開閉ハ會長ノ指揮ニヨリ擊柝ヲ以テ報スルモノトス

第十條 本會ハ素ヨリ有志者ノ懇談スルモノナレハ會員ニ旅費日當等ヲ給セス総

テ自辨タルベシ

第十一條 第一條ニヨリ縣官ヨリ諮問アルキハ其答ヲナスヘシ

但シ有志者又ハ傍聽人ヨリ諮問アルキモ本條ニ同シト雖モ會長ノ意見

ニヨリ應ヒサルコアルベシ

第十二條 本會則ハ各員ノ集議ニヨリ増減スルコアルヘシ

第十三條 本會ハ何人ヲ問ハス傍聽ヲ許スモノトス

但シ名刺ヲ以テ事務所エ届ケ出サシムベシ

會長曰又本會ノ題目ヲ設ケタレハ書記ヲシテ朗讀セシム

書記題目ヲ朗讀ス

第一節 桑畑ノ事

第一條 桑苗採リ方ノ事

第二條 桑畑ヲ新ラタニ仕立法ノ事

第三條 桑畑壹町歩ヲ仕立ルキ各種ノ種付何程ツ、區別スレハ養蠶ノ便ナルヤ

第四條 地味ニヨリ何桑ヲ植テ宜シキヲ分ル事

第二節 飼養法ノ事

第五條 掃立ヨリ二眠ノ留桑迄ノ事

第六條 二起ノ振桑ヨリ四起ノ桑付迄ノ事

第七條 四起ヨリ蛇キ上リ迄ノ事

問題

第八條 初眠ヨリ二眠及三眠ノ際ニ給スヘキ桑葉拾ル之レヲ拾テスシテ給スルキ

ハ利害如何

第九條 露桑ヲ給スルキハ害アリヤ

第十條 庭起以上天然冷氣ニシテ食ヲ求メサルキハ火力ヲ用ユルヤ否

第十一條 ゴロツキ蠶(蠶ノ身体肥太ニシテ熱ヒサルモノ)ヲ何レニシテ成繭スルヤ

第十二條 種繭撰方ノ事

第十三條 繭取扱ノ事

會長曰第一條ヨリ述ラレヨ

十番(鈴木彌作)曰桑苗ヲ採ルニ種々アリト雖モ木員ハ只其一ヲ以テ平素實験シ居ル所ノ点ニ付テ述シ其法タルヤ鐘木採ナリ其方法ハ一反歩ノ畑ニ親木三日本前後ノ割合ニ植付十分ニ培養シ置キ而シ採木ノ期節ハ早桑ハ八十八夜后十日乃至十五日頃ニ至リ新芽四五寸ニ伸タルニ際シ親木ノ根ノ土ヲ細密ニ耕シ其根元チ一寸五分又先ノ方ハ三四寸ノ深ニ畎リ是ニ鶏糞ヲ施シ而シ採苗ニナスヘキ梢ハ親木一株ノ中ニ最モ肥太ノ梢四五本ヲ除キ其次ノ中通ニテ細長ク伸ヒタル所ヲ五六本撰ミ是ヲ程宜キ所

ヨリ曲ケ芽ハ一向ノ横手(本年ノ新芽)ノミ殘シ他ノ下向ノ芽ハ摘去リ而シテ畦ニ据置

キ芯ヲ折リ下ニ向ケ土ヲ細カニシテ一寸五六分程掛ケ手ニテ均ラシ置クヘシ既ニ日敷廿日モ過キ芽ノ一尺モ伸ヒタル時更ラニ手ヲ以テ土ヲ寄ヒ足ニテ踏付ルモノナリ

此時肥料ハ益糞ヲ土ニ混シタルヲ用ユ夏土用半ハニ至リ親木ト梢トノ間一寸許皮ヲ剝キ置ク時ハ自然親木ヨリ水氣ヲ吸フ薄キニ隨ヒ子根ハ肥太ニナルモノナリ夫レ

チ翌年春季土用後ニ至リ親木ヨリ切離シ之レヲ堀起シ根元ヨリ順々ニ鐘木ノ長サニ寸乃至三寸ニ切斷スヘシ又根モ四五寸ニ切り之レヲ休ムルニハユナ地ヲ宜シトス又

肥料ハ耕ノ際土肥等ヲ堀込ニ成ルヘク土ヲ細カニシ畦幅貳尺一寸位ニ鶏糞ヲ散シ距離六寸程根ヲ東南ニ向ケ据置キ小土ヲ寄ヒ悉ク足ニテ踏付ケ十日間モ過タル頃油粕

魚滓又ハ糞尿等ヲ混シ肥料トナシ土用頃迄三四度畎リキルコトシ其度々肥料ヲ施スヘシ而シテ秋氣土用ニ近ク幹モ十分成長シ既ニ落葉ノ頃ニ至リ高サ二尺五寸程ノ上

ヨリ刈リ採リテ心ヲ止ムルモノナリ
七番(八島成正)曰桑ノ肥料ニ糞尿ハ宜シト然レモ小便ノミヲ用ユルキハ害アリ十番

ハ實驗ナキヤ

十番(鈴木彌作)曰小便ノミ用サタルナケレヒ種々ニ混シテ施シタルアリ別段害ナ
キカ如シ

五十一番(淺野徳右衛門)曰本條八十番ノ説ニ異ナルナシト雖ヒ親木ノ皮ヲ剝クハ
半夏ノ候ニ半部余ハ夏土用ニ剝クヲ可トス

八番(大橋伊三郎)曰鐘木採ノ幹ハ細太何レチ宜シトスルカ亦鐘木ハ何寸程ニ切ルカ

十番(鈴木彌作)曰鐘木採ハ細太其ニ惡シ其中ノ芽立ノ最モ能キ所ヲ撰ムヘシ亦鐘木
ノ長サハ根ノ都合ニヨルモノナレハ豫メ極メ難キモノナリ

八番(大橋伊三郎)曰十番ノ説ニ因レハ翌年ノ落葉頃ニ芯ヲ伐リ止ムルトアリ然レヒ
草木ハ天一尺伸ヒルキハ根モ亦地ニ一尺伸ルモノナリト故ニ落葉後ニ芯切ルチ
可トス亦鐘木ノ長サハ五寸位チ度トス地質ハ砂地ハ惡シ眞土尤宜シ畦ハ塲所ニヨ
ルナレヒ平坦ノ地畦チ東西ニ作ルチ宜シトス

十番(鈴木彌作)曰本員モ砂土ハ宜シトセヌナ土ハ宜キナリ八番ノ説ノ如ク秋切ラ

サルモ宜シト雖ヒ本員カ實驗ニ秋切ト春切トチ遠方ニ駄送セシニ畑ニ休メ置ク内
ニ秋切ハ十分根元ヨリ露チ含ミ居リシカ春切ハ然ラス乾キ居ルナリ故ニ秋切チ宜
シトス

四十六番(宍戸藤作)曰秋芯チ留ムルハ大ニ利アリ如何トナレハ秋ノ披岸後ハ草木ノ
根伸サルモノナリ故ニ芯チ留メルハ宜シキナリ又嵐ノ爲メニ風折レ等ノ患ナシ

卅八番(近野元右衛門)曰苗木チ枉ケルキノ芽ハ何寸位チ度トスルカ敢テ四十六番ニ
問フ

四十六番(宍戸藤作)曰四寸位チ度トス

卅八番(近野元右衛門)曰四十六番ニ又問フ早桑モ桑晚モ同様ナルカ又葉ハ何枚位付
シ片宜シキカ

四十六番(宍戸藤作)曰葉ハ七枚位晚桑ハ半夏前後ニ肥料チ施スノミ別ニ變リナシ

十七番(桃井與五右衛門)曰秋芯チ留ムルハ甚タ惡シ其故ハ寒氣ニ害チ被レハナリ他
ハ秋伐ラヌト云フ諸君ニ同シ

會長各員ニ向テ暫時休會スヘシト告ク

同日午後三時三十分開會

會長各員ニ向ヘ尙ホ前ノ個條ニ付テ講談セラレヨ

六十番(高橋久右衛門)曰桑ニヒシケ等ノ病ヲ生スルハ如何十番ニ問フ

十番(鈴木彌作)曰ヒシケハ柳田鶴田等ニ動モスレハ生スルモノナリ是ハ多分親木ヨ

リ引受ルモノナレモ親木ニアラサルモ生スルコアレハ或ハ苗ヲ採ル際甚敷捻チル

モノヨリ生スルモノト思ハル

五十五番(朝倉鉄藏)曰十七番ハ老練家ト聞ク依テ問フ桑苗トルニハ世説ニ親木ノ古

キハ惡シト云フガ何年位ヲ適度トスルカ

十七番(桃井與五右衛門)曰親木ノ古キハ決シテ惡シカラス新木ハ發根モ至テ軟弱ニ

シテ多クハ風雨ノ爲ニ害セラレ又ヒシケ等ノ病モ新木ノ親木ヨリ採リタルモノニ

多シ苗木ニハ腹ト脊トアルモノナレハ腹ヲ上ニスルナリ且鐘木モ長キ方宜シヒシ

ケハ氣候ニモ依ルモノナレモ肥料ノ度ヲ過ヌキハ必ス多シ柳田鶴田ノ種類ニハ必

ラス多ク出ルナリ

十六番(高橋久右衛門)曰ヒシケハ傘採ニ多シ如何トナレハ新芽太シナリテヨリ取ル

故ニ多シトス亦親木ニ風強ク當ル所尤多シ各種ノ内六郎ニハ出來易キモノナリ

七番(八島成正)曰傘採ハ如何ナル方法ナルヤ

六十番(高橋久右衛門)曰傘採ハ鐘木採ト同ク採木ノ上等ヲ撰ミ五寸モ育チシ片蠶糞

ヲ混シタル肥料ヲ充分ニ施シ捻テ二三寸位ニ土ヲ掛ケ芽ノ發生セシキ又

土ヲ掃キ芽ヲ切ラスシテ下チ切り放スナリ故ニ鐘木採ニハ劣ルモノナリ

七番(八島成正)曰傘取ノ期節ハ何月頃ナルヤ

六十番(高橋久右衛門)曰大体四月上旬ナリ地質ハ川原ノ地宜シトス

十七番(桃井與五右衛門)曰桑ノ芯ヲ折ラス少シニテモ伸シテ一本モ多ク取ルハ宜シ

肥料ハ蠶糞ヲ施スハ土ノ腐レ易キ故惡シ草ヲトルニハ手ヲ以テシテ鋤チ入レサル

ナリ休メル片ハ蠶糞ヲ多ク用ササル方宜シ然レモ土鼠ノ豫防ニハ少々用サルモヨ

シ皮ヲ剥クハ夏土用ニレヨリ十日目チ宜シトス

會長意見アルヲ以テ席ヲ卅八番ニ讓リ四十番ノ席ニ着ク

四十番(渡邊源兵衛)曰昨年養蠶中本省ヨリ或ル官吏來リ市兵衛桑ト小幡桑ハ桑葉大ニ差アレ市兵衛桑苗ハ却テ價高キハ如何ナル譯ニヤト問ハル、ニヨリ市兵衛ハ一齡二齡ノ蠶ニハ要用ノ桑ニシテ發根少キ故ナリト答シニ該官吏夫レハ採木ヲ枉ケルニ根ヲ發生サセントスル處ニ少シツ、上皮(但シ眞幹ニ當ラサル様)ニ疵ヲ付ルハ大ニ宜シト此説ヲ信シ遲節ナカラ新芽ノ一尺ニモ伸タル頃五六本ツ、該法ヲ以テ試ミシニ果シテ能ク根ヲ生シタリ故ニ採木ニハ都テ疵ヲ付ルハ宜シキ法ナリト信ス

十番(鈴木彌作)曰四十番ノ説ニ依レハ疵ヲ付ルハ利アリト云夫レハ何程疵ヲ付ルカ

四十番(渡邊源兵衛)曰小刀様ノ物ヲ以テ皮ニ聊カ疵ヲ付ルナリ

五十九番(五十嵐彌五右衛門)曰傘採ニスル土ハ土味ニ依ル者ナレ市西ニ山有リテ東ノ開ケシ場ニテ砂カ、リシ所宜シ其故ハ芽ノ細ク出ルモノナレハナリ斯ル所ニテハ鐘木採ニモ劣ラス又仕立方ハ畦ハ一尺位ニシ木ト木ノ間ハ三寸程距テ其間ヲ足

ニテ踏ミ切テ伏ヒタル所ニハ土ヲ轉掛ケ肥料平ラカニ施シ置クモノナリ

番外(渡邊五等屬)各員ニ問フニ傘採ト鐘木採ノ利益平均且ツ又實際傘採ニ利益少キモ地方ニヨリ已ムナク植ユルモノナルカ

六十番(高橋久右衛門)曰鐘木採ノ傘採ニ優ル殆ント倍ナレ市如何セン土地ノ山手ハ傘採ニアラサレハ採ルコト難キ故ナリ又割合ハ一反歩ニ傘採ヨリハ鐘木採ハ倍數ヲ得ルモノナリ

十七番(桃井與五右衛門)曰一反歩ニ五百廿株ト見積リテ一株ヨリ上四本下五本ヲ取ル凡ソ平均一萬四千本内外ヲ得ルモノナリ

番外(古川御用掛)各員ニ向テ今桑苗ヲ採ルニ其幹ニ疵ヲ付ルト云フニ參考ノ爲メ一言セン總テ草木ハ水液ヲ含テ成育スルモノナレハ今桑苗ヲ採ルト云フニ苗木ニ疵ヲ付ルト云フハ宜シキ議論ナリ其疵ヲ付ルニ定度アリ木ノ上皮ト身木ノ間ノ皮ヲ亞皮ト云フ此亞皮ヨリシテ多ク水液ヲ吸入スルモノナレハ接木スルニモ此亞皮マテ疵ヲ付ルモノナリ故ニ今各員ノ疵ヲ付ルト云フモ無暗ニ疵ヲ付ケス亞皮マテ疵

チ付ケシナラハ大ニ利アラント考ヘラル、故茲ニ述ルナリ

會長(近野元右衛門)曰稍各員説モ盡キタル如シ第二條ニ移ルヘシト述テ書記ヲシテ朗讀セシム

第二條 桑畑新タニ仕立法ノ事

十番(鈴木彌作)曰本員モ十年前程以前ニ川原ノ淺地ニ仕立ルヲ發明セリ其ハ明治五年ノ頃我地方ニ於テ川原ノ石地ヲ買求メ此レヲ鶴背(鉄ノ器)ニテ堀起シ土クレチ混シテ畑トナシ平常一株植エヘキ所ニ三本ヲ植エ試ミタリ其植様ハ東南北各向チ異ニセシニ翌年ニ至リ一丈余モ伸ヒ大ニ利ヲ得タルヲアリ然ルニ近年ニ至リクレ土ノ氣薄クナリシカ少シク發芽モ宜シカラザルヲトハナリヌ之レヲ一言シテ參考ニ供ス

八番(大橋伊三郎)曰山手ニ新畑ヲ仕立ル時ハ杉等ノ樹木茂ル所宜シ其故ハ枝等ヲ切リ落シ之レチ底ニ埋メテ腐ラシ而シテ畑ヲ仕立ルキハ肥料等ノ爲ニモ大ニ便ナリ又石等ハ別段取除ケルニ及ハス却テ石ノアルハ土中空氣ノ流通ヲ能クシ利アルモノナリ

ノナリ

六十番(高橋久右衛門)曰新畑ハ成丈深ク堀リ柴等ヲ混シ入ル、モ宜シケレモ濕氣多キ土地ハ水抜ヲ附ケテ仕立サレハ不可ナリ夫レニモ充分ナラサルキハ枝堀ヲ付ケ小石葉柴ヲ入ルヘシ植付ハ落葉后宜シ肥料ハ蠶糞ヲ施スヘシ十月頃植ルハ春植ヨリ利アルヘシ

五十五番(朝倉鉄藏)曰濕地ニアラサル場所ヲ撰ミテ新畑ヲ仕立ルハ勿論ノコナレモ本員ハ田ヲ三反歩程畑ニ直シタルコアリ之レニハ松ノ枝或ハ諸木ノ葉等ヲ入レテ仕立タルニ大ニ利ヲ得タリ又六十番ハ十月頃植ル方宜シト雖モ惡シキモノトス如何トナレハ稻ノ苗植付ト同様ニテ彼岸后二十日モ過キテ土ノ暖マリシ頃宜キモノナリ

八番(大橋伊三郎)曰山手ニハ秋植モシ清明後植ル方宜シ

會長(近野元右衛門)曰各員ニ向テ本日ハ之レニテ退會スヘシト述フ于時午後五時十分ナリ

四月十三日午前九時三十分開會

會長(近野元右衛門)曰昨日ノ續キ第二條ヲ講究セラレヨ

七番(八島成正)曰本員ハ別段新發明モナケレモ舊慣ノ儘ヲ縷述セン新タニ桑畑ヲ仕立タルニハ二月頃底堀二尺余ニ堀リ置キ清明後ニ至リ該畑ニ三尺五寸ニ四尺又ハ四尺ヲ距テ穴ヲ深サ壹尺二三寸ニ堀リ桑苗ノ根ヲ八寸位ニ切り置キ四方ニ分チ少シ土ヲ掛ケ其上ニ肥料ハ燒酎糟人糞等ヲ溶解シ用井又土ヲ掛ケ足ニテ踏ミ植付ルモノトス其後ハ草等ノ茂ラサル様手入レテ充分ニ加ワルナリ

十五番(加藤勇次郎)曰本員ハ七番ト大同小異ナリ然レモ玆ニ經驗上チ一言セン桑ヲ新畑ニ植ルハ市兵衛ナレハ苗ト苗ノ間チ距ル五尺ニシテ一反歩平均四百本餘柳田赤木等ハ三尺五寸ツ、チ隔テ一反歩ニ八百本餘ヲ植ユルナリ又底堀ハ三月頃ニシテ植附ハ穴チ一尺モ堀リ桑ノ根チ東南ニ向ケ清明後植エル方宜シ肥料ハ馬糞或ハ菜ノ干葉魚糞等ヲ用井然レモ魚粕ハ燒ケルノ怖レアル故根際チ少シ去テ施スヘシ土ハ九八分ニ掛ケテ七番ノ如ク踏付ルナリ

番外(渡邊五等屬)問フ新畑ニ植付ヘキ桑苗ヲ市兵衛ハ遠ク他ハ近ク植ルハ何ノ爲カ又底堀ハ何尺ニシテ苗木ハ何程ノ深サニ植ルカ土質ハ何土第一ニ適スルカ區別チ聞ク

十五番(加藤勇次郎)曰市兵衛等ノ早桑ハ幹キ太ク成育スルモノ故自然遠ク植ルモノナリ中晚桑ハ段々ト差異アル故是レニ適フテ距離チナス底堀ハ何レモ同シ早桑ハ一尺二三寸他ハ一尺位ナリ植付ハ底堀ノ堀境ヨリ五六寸上ケテ植ユ土質ハ何レモ好キチ撰ムニシカス

番外(渡邊五等屬)又問フ土地ニヨリ淺深アルハ如何

六番(八城權五郎)曰往年ハ深ク植エシカ近年ハ何レモ淺シ深キハ病等ヲ生スル憂モアリ亦収利モ薄シ淺キハ是レニ反シ収利モ多ク又年チ經テ植替ノ際堀拔ニモ輕便ナリ又植付ノ際モ淺クスルハ手輕ナリ植付ハ肥料ヲ混シタル土チ五寸モ掛ケ根附キシ頃踏ミ置ク方ヨロシ

十七番(桃井與五右衛門)曰深キニ利アレモ淺キハ害アリ尤河原地等ハ淺クシテ利ナ

早ク見ルニ若カス如何トナレハ洪水等ノ防害モアレハナリ
 四十番(渡邊源兵衛)曰淺キハ利ノ薄キノミナラス或ハ育チ兼ヌルコアリ又肥料ノ利
 方モ薄キカ故カ芽立ニモ利アラス且四十年モ經シ桑ト雖モ實ニ利ノ尠ナキモノナ
 リ淺キハ利ノ早ク見ラル、ノミナラス逐年多ク利アルモノナリ然シ底堀ハ成丈深
 クシテ植付チ淺クスルハ宜シ
 五十一番(淺野徳右衛門)曰今四十番ノ説ノ如ク新タニ仕立ル桑畑ハ成ヘク底堀深ク
 スルチ好トス且植付ノ際ハ上土ノ乾燥シタルチ根本ニ掛ケルチ可トス
 三十五番(八城太左衛門)曰淺サ植ニ利アルハ論チ俟タサレモ植方ニ法アリ底堀チ二
 尺餘ニ堀リ而シテ植付ハ尤モ淺ク植ルモノトス又市兵衛等ノ早桑チ遠ク距シテ植
 ルハ土用ニ至リ繁茂甚ダシク之カ爲メニ枯枝等チ多ク生スルチ防ク爲ナリ
 四十番(渡邊源兵衛)曰本員ハ從前新畑ニ淺植エシテ己ニ廿年モ經過スレモ依然トシ
 テ益々繁茂ノ勢アリ此レハ極堅土ナリシカ底堀チ深クシテ淺植セシ實驗上ヨリ利
 アルチ云フナリ

番外(渡邊五等屬)問桑苗ハ一年二年三年採トアリ其内何レチ善良ノモノナルヤ
 十番(鈴木彌作)曰御諮問ノ廉々ハ其根ニモヨルモノナレモ一年トリチ宜シトス或ハ
 一年採ハ持命短キモノナリ採云モ本員ハ一年採チノミ用非居ルニ却テ利アルカ如
 シ
 八番(大橋伊三郎)曰本員ハ新畑ニ一年採ト二年採ト經驗セシニ二年採ハ植ツキ能ク
 成木ナスチ以テヨシトス
 會頭(近野元右衛門)説アルチ以テ席チ四十番ニ讓リ三十八番ノ席ニ復ス
 三十八番(近野元右衛門)曰己ニ本條ニ於テ諸説盡キタル如クナレモ本員カ更ニ各員
 ニ問ハン總テ草木ニ午房根ト云フモノアリ桑ニモアルヘキカ
 十番(鈴木彌作)曰桑木ニハ午房根チキモノナリ
 卅八番(近野元右衛門)曰了解セリ然ラハ本員ハ十年以來經驗セシ所チ述フヘシ植立
 ニハ苗ノ根ハ肥料チ用非ス翌年冬至ノ候ニ至テ肥料チ用ルハ大ニ利アリ斯クセシ
 株ハ尤大ニシテ鎌入ノ際ヨリ利チ見ルモノナリ

十五番(加藤勇次郎)曰八番ノ説ヲ聞クニ一年又ハ三年ヨリハ二年採チ良トスルハ如何ナル利アリヤ

八番(大橋伊三郎)曰嚮ニ述ル如ク別ニ異説ナシ猶根ノ善良ナルヲ撰ミ土質ヲ吟味シテ植ルキハ二年採尤モ利アルモノト信ス

三十八番(近野元右衛門)曰最早各員ノ説モ盡キタル如シ次項ニ移ラレンコト望ム尙次項ハ三條四條ヲ連絡シテ會ニ附シテハ如何

會長(渡邊源兵衛)曰一体本會ハ日數五日ノ間ヲ以テ了ルノ見込ナレハ可成速ニ涉ルヲ望ムナリ故ニ只今三十八番ノ演ヘル如ク三條四條ヲ連絡シテ會ニ附スヘシ各員

領承アレ

書記起テ細目ヲ朗讀ス

第三條 桑畑一町歩ヲ仕立ルキ各種ノ植付ケ何程ツ、區別スレハ養蠶ニ便ナルヤ

第四條 地味ニヨリ何桑ヲ植テ宜シキヲ分ル事

七番(八島成正)曰凡一町歩ニ八千本ヲ植付ルモノトシテ其配付種類ヲ詳細ニ分タンニ市兵衛等ノ早桑ハ一千本中桑ハ二千本晚桑五千本トス然ルキハ養桑ニ適フモノナリ地味ハ小幡六郎ハ砂地市兵衛等ノ種類又ハ赤木杯ハ真地ヲタ地ニ宜シ六之丞ハ石地ニ宜シ

十七番(桃井與五右衛門)曰本員モ七番ト異説ナシ鶴田六郎高助等ハ尤モ日向ノ宜シキ地ヲ撰ミテ植ヘシ又市兵衛赤木等ハ強土少々ノ小石地ニモ害ナキモノナリ

十番(鈴木彌作)曰一丁歩ニ七千四百本ヲ植ルモノトシ市兵衛ハ四五尺ツ、距シ一反五畝歩柳田赤木ハ四尺程ニ距シ三反歩小幡ハ三尺五寸位ニ隔テ五反五畝ヲ植ル

ヲ適當ス然レモ市兵衛ヨリハ一脊負五貫目トシテ百五六十貫目柳田赤木ヨリハ四百貫目余小幡ヨリハ千六七百貫目ノ桑葉ヲ得レハ原種六枚ニ用ユルモ不足ナシ土

質ハ市兵衛赤木柳田等ハ真土ニ宜シ他ノ晚桑ハ總テ川原地ニテ宜シキモノナリ十五番(加藤勇次郎)曰各員ト他ニ異ナル所ナケレモ本員ノ經驗ハ市兵衛等ノ早桑ハ

養蠶ニ眠マテ八畝歩赤木高助等ノ中手ハ四眠マテ二反八畝廿七步他ノ晚桑ハ熟蠶

マテ六反三畝六歩ト植付タリ
四十五番(大竹甚右衛門)本員モ十五番ニ異ナルヲナケレト晩桑ヲ七反歩トシ専ラ飼
養ニ供スル見込ナリ

三十八番(近野元右衛門)曰蠶種家ノ養桑ニハ各員ノ説ニテモ可ナルヘケレト生糸取
ノ分ハ早桑ヲ多分植ル方宜シ時機ニヨルト雖ト成丈柳田ヲ植ルヲ要ス土質ハ諸君
ニ同シ

五十一番(淺野徳右衛門)曰製糸家ハ柳田ヲ多ク植ルハ利益アリ如何トナレハ此桑ヲ
以テ飼養セシ成繭ハ同種類ニシテ良品ナリ且ツ一升ニ付糸量壹分余ノ過目ヲ生ス
ルモノナリ是ハ明治六年度ノ實驗上ニ發明シタリ且蠶種家ハ十五番四十五番ノ説
ノ如ク小幡(晩桑)ヲ充分地質ヲ撰ミ植サルヘカラス

二十九番(芳賀甚七)曰柳田尤モ軟弱ナルモノニシテ害ヲ受ケ易シ七番ノ説其當ヲ得
ルモノト信ス
番外(古川御用掛)説明

桑葉成分中最モ蠶ノ体ニ必要ナル物質ハ窒素磷酸剝篤亞斯及硫黃ナリ
桑植ニ數種アリテ市兵衛小幡高助赤木柳田等ノ名稱アルモ何レノ桑ヲ以テ最モ成
繭ニ必需ナル物質ニ富ムヤト問フニ至リテハ豫メ種類ヲ舉クルト能ハス如何トナ
レハ肥料栽培及風土等ニ由テ其質同シカラザレハナリ然リト雖ト要スルニ蠶ハ生
糸ヲ産スル爲メ多量ノ窒素ヲ要シ磷酸及硫黃モ亦其成分ノ要部ヲ占ムルモノナレ
ハ是等ノ物質ヲ含ム彌々多ケレハ愈々良トス故ニ培養ハ前陳必需ノ諸物ヲ桑樹ニ
與フルモノヲ要ス則チ窒素ハ抱合物多ク有スルモノ干繭等ノ魚類人糞牛馬糞燒酎
糟鳥糞青草米糠等ノ肥料ヲ良トス凡ソ植物ハ有機質無機物ノ二物ヨリ成リ地中ノ
養分ヲ吸収スルモノナレハ能ク地質ヲ考量シテ其乏キ所ノモノヲ補フベキ肥料ヲ
施スチ肝要トス若シ爰ニ注意セサレハ多クノ肥料ヲ施スモ到底勞多クシテ功少ナ
キノミナラス反テ害ヲ生スルヲアリ

會長(渡邊源兵衛)各員ニ向ヘ衆説モ最早盡キタル如シ時刻己ニ正午ナレハ休議喫飯
セラレヨ

同日午後一時三十分開會

會長(渡邊源兵衛)各員ニ向へ之レヨリ飼養法ノ研究ヲ演ヘラレヨ
書記起テ朗讀ス

第二節 飼養法ノ事

第五條 掃立ヨリニ眠留桑迄ノ事

會長(渡邊源兵衛)曰本條ニ意見アレハ席ヲ三十八番ニ讓ル
十五番(加藤勇次郎)曰本日ハ是レニテ退場ヲ命セラレンコトヲ望ム
五十五番(朝倉鐵藏)曰日數ニ限リアレハ本日は非此項ヲ終リタシ
會長(近野元右衛門)曰本日ハ己ニ時刻モ過キタリ依テ一同退散スヘシ
十四日午前十時十分開會
會長(渡邊源兵衛)意見アルニ付席ヲ副會長ニ讓ル
會長(近野元右衛門)曰昨日ノ續キ飼養法ニ就キ述ベラレヨ
四十番(渡邊源兵衛)曰掃立ハ能ク揃ハスルヲ專一トスルモノナレハ一二時間遅レテ

發生スルモ悉ク發生シ揃フマテハ桑ヲ與ヘサルナリ悉ク發生セシキハ原種一枚掃
ノ蠶兒ヲ古葉座二枚ニ散布シ二匁ノ蠶兒ナラハ四匁ノ桑ヲ與ヘ斯クスル三時間モ
過キテ四匁夜モ亦同シ翌日ニ至リ五六匁宛ヲ與フルコト六七回三日目ニハ六七匁八
九回寒暖計ハ七十五度位ニナシ置クヘシ此時ハ適度ニ葉座ヲ増シ五日目位ニ至レ
ハ眠リ始マル故七八枚ノ葉座ニ頒配スヘシ此時ニ至テハ桑ノ量日ヲ減シ三時間ニ
一度位ニ與フルナリ然シテ留桑ハ起蠶十分ノ一見ユルキヲ度トシ暖氣ヲ少シク増
シ眠蠶十分ノ一ニナリシ頃ヲ振桑ノ時トシ暖氣ヲ元ノ如ク引下ケ養桑ハ薄ク初日
ハ二三度其翌日ハ三四度トシ室内ノ空氣ハ成丈ケ流通ヲ良クシタキ者ナリ
七番(八島成正)曰本員ハ四十番ト少シク異ナルナリ原種一枚ヲ葉座一枚ニ掃キ寒暖
計ハ七十二三度トシテ翌日ハ葉座ヲ二枚其翌日四枚八枚十六枚ト漸次倍ニナシ是
ハ赤姥蠶ナリ

十五番(加藤勇次郎)曰初眠ノ際寒暖計ヲ餘リ下クルハ蠶病ヲ生スルノ基ヒナレハ七
十二三度ヲ適度トシ養桑ハ常ニ廿匁位ヲ與フルニハ留桑ハ廿五匁ヲ與フ起蠶半ハ

位出ル迄ハ暖氣ヲ下ケサルヲ好トス

八番(大橋伊三郎)曰本員ハ午前ニ掃立翌日ヨリ毎日二度ツ、分ルナリ是レハ下ノ乾キヲ善クスルカ爲メナリ寒暖計ハ七十五度位ニナシ振り桑後給桑毎ニ焚火ヲ用ユ但シ一室ニ常ハ古桑手ノ量目五十目 又留桑ハ眠り始メニ二三回厚ク與ヒ漸次ニ薄ク與ヒテ眠蠶ノ内十分ノ一起タルキヲ以テ留桑トスルナリ

十番(鈴木彌作)曰本員ハ四十番ト同クシテ起揃ヒテ給桑ノキ寒暖計ヲ八十度ニ昇セ漸々引下ケテ七十度位ニスルノ目的ナリ

五十一番(淺野徳右衛門)曰本條ニ付テハ各員ノ説アリ然レモ糠掃キニ付テハ未タ充分ノ結果ヲ得ス因テ本員ハ是ノ掃立法ニ付陳ベン扱テ原種壹枚ヨリ生スル毛蠶四匁ヲ圓徑貳尺六寸五分ノ藁座貳枚ニ糠ヲ充分ニ(凡ソ八合)散布シタル上ニ蠶兒ヲ散ラシ后チ一時間ヲ經レハ悉ク蠶兒自ラ藁座全面ニ散布ス是時ニ桑ヲ三十目給フルナリ併シ桑ハ給フル一時間前ニ刻ミ置キ紙ニ散ラシ幾度モ手ニ揆キ擴メ能ク汗肪ヲ取リテ與フルナリ而シテ三日目ニ糠分ケテナス是時ハ藁座ノ數ヲ四枚ニシ後

チ相當ノ扱テナスナリ且ツ火力ノ弱ニハ各員ヨリ種説アレモ是ハ第一天候ヲ考按シテ斟酌スルモノニシテ譬ヒ晴天ト雖モ大氣中ニ水素分ノ多クアルキハ少シク焚火スルハ尤モ可ナリ

二十七番(渡邊虎之助)曰給桑ハ掃卸シタル蠶兒ノ能ク散シタルヲ見テ與フヘシ分量ハ四匁ノ虫ニ七匁ノ桑ヲ給ス渾テ初日ハ多量ノ桑ヲ與ヒス斯クスルキハ眠リ際ニ至リ不眠蠶ノ憂ナシ

會長(近野元右衛門)曰是ヨリ次項ニ移ラントテ書記ヲシテ題目ヲ朗讀セシム書記起テ題目ヲ朗讀ス

第六條 二起振桑ヨリ四起桑附ケ迄ノ事

六十番(高橋久右衛門)曰初齡ト別段ノ手順ナシ充分ニ給桑シ火力ヲ餘リ強クセス寒暖計計リ蠶兒ヲシテ空腹ナラシメズ室内空氣ノ流通ヲ充分ナラシメ置クベシ七番(八島成正)曰下ノ乾ト不乾トハ其當ヲ得ザレハ不可ナリ冷氣ノ爲ニ成長シ兼ルコアレハ寒暖計ハ常ニ七十五度内外ニナシ置クベシ藁座ノ數ハ初眠ヨリ三眠迄ハ

一起毎ニ倍ニ増シ三眠後ニ至リテ三分ノ一ヲ増ス眠ニ就カントスルモハ二三度暖氣ヲ増シ養桑ヲ充分ニ與フ眠ニ就クニ從テ養桑ノ量ヲ減シ又暖氣モ漸次七十二三度ニ下ス譬ハ正午十二時ニ眠ニ就キ始メシキハ翌日正午十二時頃一藁座ニ起蠶十二三頭見ユシ時留桑ヲナス寒暖計七十二度位ニナシ置キ翌日午前十一時頃ニ至リ起蠶九分方ニ至リシ時薄ク振桑ヲナス二眠ヨリ三眠迄ハ眠リノ時間モ自然増スナリ三眠共飼方ハ大概同シ四眠ノ桑付ハ十分ノ三位未タ起ザル蠶ノ見ユルモ振桑ヲナシ尤モ暖氣ナルモ起蠶六分方位ニテモ振桑スルコトアリ又四眠ノ起下ハ振桑ヨリ三四度給桑シテ下ヲ拔クナリ

四十番(渡邊源兵衛)曰四眠ノ起ハ飼養中第一ノ要点故最モ注意セサル可ラス其眠リノ休桑時間ヲ短クシ七分通りモ起キタルモ桑ヲ給ス若シ南風等ニテ蒸氣等アルモ起キタル分ヨリ拾ヒ取り桑ヲ與フ可シ

八番(大橋伊三郎)曰四起ハ揃ハザルモ格別ノ害ナクハ出テ健康ナラシムルヲ專ニ注意スヘシ

一番(佐藤伊三郎)曰桑付ハ入梅前ニ養フ虫ハ起下ヲ拔カサルモ妨ケナシ入梅後ハ

下ヲ拔カサレハ熱スル故ニ四眠共ニ糠ヲ振リ桑ヲ與ヒ下ヲ拔クベシ

十番(鈴木彌作)曰四起ニ至リテハ初二眠ト異ナリ今日ノ正午ニ桑付セシモノナラハ

翌日ノ正午ニ下ヲ拔ク可シ餘リ早ク下ヲ拔クハ却テ害アリ

時己ニ零時十分ナリ依テ會長各員ニ喫飯ヲ命シ一同退場ス

四月十四日午後一時十分開會

會員一同着席ス

會長(近野元右衛門)曰午前ノ續キヲ述ヘラレヨ

五十一番(淺野徳右衛門)曰昨日モ諸君ヨリ述ラレシ通り此會ニ部落幹事ヲ置キタシ

七番(八島成正)曰部落幹事ヲ置ク五十一番ノ説尤モ可ナリ會長ヨリ指名アラソコナ

乞フ

會長(近野元右衛門)曰然ラハ會長ヨリ指命スベシ伊達郡ニハ八番五十一番十五番信

夫郡ニハ三十九番ニ托スベシ

四十四番(横山清次郎)曰四眠起ノ下ヲ拔ハ振桑ヨリ三度目ニ桑ヲ掛クルキ九州網ヲ掛ケ而シテ桑ヲ二度掛クレハ下ヲ拔クニ最モ輕便ナリ

十五番(加藤勇次郎)曰四十四番ノ説ノ如ク九州網ハ最モ輕便ナリ本員モ是レヲ試ミシナリ

會長(近野元右衛門)曰次項ニ移ル可シ
書記起テ題目ヲ朗讀ス

第七條 四眠ヨリ蜷キ上リ迄ノ事

六十四番(大波藤兵衛)曰四眠ハ七分通り起蠶ノ見ユルキ振桑シ十分ニ起揃テ四五回給桑シテ起下ヲ拔キ夫ヨリ三日目ニ又下ヲ拔キ晝夜共ニ四五回桑ヲ與ヒ氣候ノ通常ナルキハ下ハ朝夕ト二度ツ、拔キ雨天ノキハ一度ニテヨシ八九日ヲ經テ蜷蠶ノ見ユルキハ始メ一二疋ハ其儘ニ置キ三分ノ二以上ノ蜷熟ニ至リ始メテマブジニ拾ヒ取り殘リシ分ハ少々早キ方ニ見ユルモ引上ケテ害ナシ

一番(佐藤伊三郎)曰四起ハ八分モ起タルキ糠ヲ敷キ振桑シテ別ノ藁座ニ移シ眠蠶ハ

靜ニ別ノ藁座ニ寄セテ起スナリ此際不揃ナレハ蜷上リノ際モ自然不揃ニナリ手ノ廻リ兼ヌルコアリ故ニ成丈揃ヘル様注意スルナリ又蜷蠶ニ至リテハ糠ヲ用ユルナリ蜷上ノ際ハ糞軟カニナル故足ヲ黒クナシ其儘ニテ繭ヲ造ルモノナレハ糸ニ引テモ害ヲ生スルモノナレハ其憂ヲ除ク爲ナリ

四十四番(横山清次郎)曰蜷上リノ際ハ別段諸君ト異ナルコトナシ南風ノキ成ル丈ケ空氣ヲ流通セシメ又冷氣ナルキハ火力ヲ用ヰテ宜シ

四十番(渡邊源兵衛)曰健康ノ蠶ニシテ蜷後繭ヲ掛ケズシテ斃ル、コアリ此等ハ何ノ原因ニ依ルモノカ

六十二番(佐藤林之助)曰此等ヲモ載セタル書ヲ呈シ置キタレハ書記ニ一應朗讀セシメラレシコトナク

書記朗讀ス(長文ナルヲ以テ此ニ略ス)
番外(渡邊五等属)曰只今諸君カ述ヘラレシ外ニ手數ノ除ケル方法ノ説ハナキカ又五

齡ニ至リテ
方言庭蠶冷氣ノ際用ユル火力ハ度數何度位ナルモノカ

七番(八島成正)曰手數ヲ省クハ別段方法迎ナケレモ蠶種製造家ニテハ五度給桑スル處製糸家ニテハ毎度ノ桑量ヲ多ク與ヒテ三度トシ下拔キハ網ヲ用ユレハ大ニ手數ヲ省クナリ又火力ハ己ムナク用ユルナレハ六十二三度位ヲ度トスルナリ
會長(近野元右衛門)曰是ヨリ次頃ニ移ラントテ書記ヲシテ題目ヲ朗讀セシム
書記起テ題目ヲ朗讀ス

第八條

一眠二眠或ハ三眠ノ際ニ給スヘキ桑葉ノ莖ヲ捨ル之ヲ捨ズシテ給スルキハ害アリヤ又益アリヤ

十五番(加藤勇次郎)曰莖ヲ去ラサルヲ善トス第一下乾燥ニ過ズ空氣ノ流通ヲ能クス且ツ此莖ヲ嘗テ餓ヲ凌グコモアリテ甚タ利アルモノナリ
七番(八島成正)曰莖ヲ去ラサルハ大ニ害アリ蠶兒モ莖ハ喰殘ス故桑ノ有無ヲ辨スルコト難ク殊ニ依リ餓ニ至ラスルコトアリ又爲メニ藁座モ乾カスシテ濕氣ヲ生スルノ憂モアリ旁以テ不利ナリ
六番(八城權七)曰又桑ハ生長ノ早晚ニ依ルモノナリ

十番(鈴木彌作)曰一眠前ハ取ラサルモ後ハ莖ヲ取ルヲ宜トス
六十番(高橋久右衛門)曰莖ヲ去ラサルハ利ノアルハ勿論ナルヘシ如何トナレハ莖アルモ蠶ニ左程ノ害ヲ被ラサルモノナレハ莖ヲ去ルノ手間モ省ケ又桑ノ費モナキ故利アルモノナリ

四十番(渡邊源兵衛)曰山戸田邊ハ何桑ヲ多ク用ユルカ
七番(八島成正)曰本村ハ一眠前ハ市兵衛桑二眠ヨリ三眠マモハ柳田六郎杯三眠ヨリ小幡ヲ用ユルナリ一休本村内一般ハ六郎柳田多カルベシ
八番(大橋伊三郎)曰本員カ明治十四年后傳習生ヲ置キタルニ該生徒ハ多ク箕吹ヲ知ラサル故ニ莖ヲ去ラス用ユルコトシテ濕氣腐敗等ノ憂ハ糠ヲ以テ防クモノトセシニ却テ利アル如ク覺エラル

十番(鈴木彌作)曰本員試ニ去リタル莖ニ葉ノ少々付キアル故別ノ蠶ニ與ヘタルニ不眠蠶ヲ生シタリ依テ考ヘ見ルニ莖ヲ除カサルハ甚タ害アルヘシト信ス
十五番(加藤勇次郎)曰濕氣ヲ去ルコトハ八番ノ說ノ如ク糠ヲ用ユル故莖ヲ除カサル方

宜シ又餘リ乾燥ニ過ルルハ亦蠶病ヲ生ズルナリ
五十一番(淺野徳右衛門)曰本條ニハ各員ノ意見アリ實ニ桑葉ノ莖ヲ捨テサルハ多分
利益アルニ似クレルハ八番ノ説ノ如ク濕氣ヲ恐ルハノ念アリ又十五番ハ乾燥過ルル
憂フルノ念無キヲ能ハス然レモ乾ト濕トハ第一該時ノ氣候ニ依ルモノナレハ天然
ノ氣候ヲ圖リ莖ヲ捨ルト捨テサルハ濕氣ノ候ト乾燥ノ候トニ依テ取捨スルハ尤モ
注意スベキナリ

會長(近野元右衛門)曰次項ニ移ルヘシト述フ
書記起テ題目ヲ朗讀ス

第九條 露桑ヲ給スルルハ害アリヤ

五十九番(五十嵐彌五右衛門)曰露桑ハ場合ニヨリ害ナキ時モアレトモ眠リノ際ハ最
モ害アリ

五十七番(佐藤源之助)曰露桑ヲ用ユルモ差シタル害ノナキモノナレモ只庭起ノ際用
ユルハ害アルモノ故此中ハ用井サル方宜シ

六十番(高橋久右衛門)曰露桑ハ一體害アルモノナレモ止ヲ得サルルハ細カニ切斷シ
テ喰殘サ、ル様少量ニ與フルルハ害ナシ

八番(大橋伊三郎)曰番外古川御用掛ニ問ハシ只今露桑ノ項ヲ講究シ居ル際ナルガ或
ル俗説ニ雨ニ濡レタルハ水ニ浸シテ喰ハシムレハ害ナシトテ如此スル者アリ流水
ト雨水トノ害何レニアルカ

番外(古川御用係)答フ水ハ素ト水素ト酸素トニヨリ成リ立ツテ水トナルモノナレハ
水ニモ堅軟ノ區別アリ溪水ノ如キハ有氣物ヲ含ミ居ル故堅ク荒シ雨水ハ蒸溜水ト
異ナルナケレハ軟カニシテ輕シ故ニ毒モナシ只降下ル際途中ニテ炭酸瓦斯消酸瓦
斯等ノ毒物ヲ混シ來ルモ是レ等ハ流水ノ如キ害ヲナサス

四十番(渡邊源兵衛)曰露ト雨トノ區別ハ奈何
番外(古川御用係)答フ確答ハシ難キモ左ノミ異ナルモノナラス
十五番(加藤勇次郎)曰暖氣ノキハ室内モ自然乾シモノ故朝露等ノ掛リシ桑ヲ與フル
モ害ナキモノナレモ雨天ノキハ成丈露ヲ掃フテ與フル方宜シ

會長(近野元右衛門)曰次項ヲ談セテレロ
書記起テ題目ヲ朗讀ス

第十條

庭起以上天然冷氣ニシテ食ヲ求メサルモハ火力ヲ用ユルヤ否

六十番(高橋久右衛門)曰天然冷氣ナルモト雖モ火力ハ用ヰサルナリ蠶ノ食ヲ欲セサルモハ與ヘサルモ害ナシ

十番(鈴木彌作)曰長雨ノ際ハ是非火力ニ依ラサルヲ得スト雖モ桑ヲ多ク掛ケサルモノナリ

六十二番(佐藤林之助)曰冷氣ノ時ハ熟蠶ノモマテモ火力ヲ用ヰテ室内ヲ乾カスモノナリ尤モ庭起後ハ火力ヲ用ヰテ後ヲ桑ヲ與フヘシ

七番(八島成正)曰火力ヲ用ユルモ敢テ害ナシト雖モ庭起後ハ蠶糞多分ニ出ルモノナレハ是カ腐敗ヲ來シテ遂ニ害ヲ來タスコアレハ善ク注意スヘシ冷氣ニシテ止ムナ得ザル場合ニ於テハ焚火ヲ用ユル方宜シ

四十四番(横山清次郎)曰三四日モ雨天續キニテ冷氣ノモハ午前丈ケ七十五度位ヲ適

度トシテ火力ヲ用ヰ食ヲ勸ムルモノトス

十五番(加藤勇次郎)曰冷氣ノ爲メ蠶兒食セサルモ熟蠶モ隨テ後ル、モノナリ又冷氣ナルモ俄ニ南風ニ變シテ暖氣ヲ催シテ食充分ナラスシテ蟋蠶ニ至ルコアリ此等ノ憂ヲ防グ爲メ火力ヲ用ユルモノナリ火力モ尤モ朝ニ一回ツ、用ユ但シ炭薪ノ差別ハ論セズ

番外(古川御用係)曰火力モ尤モ用ユルニ付キ一言ス火力ヲ用ユルモ室内ニ水ヲ器ニ入レテ便宜ノ所ニ置クヘシ然ルモハ火力ヲ平均スルモノナリ

會長(近野元右衛門)曰本日ハ時間モ過キタリ依テ是ニテ散會スヘシト一同退散ス時己ニ午後五時三十分ナリ

四月十五日午前十時十分開會出席會員三十人

會長(近野元右衛門)曰昨日ニテ己ニ七條以下ノ説モ盡キタル如クナレモ此頃ハ養蠶中最モ大切ノ所ニテ且始テ着席ノ會員モアレハ尙意見アル人ハ充分述ヘタル、様致シタシ

十五番(加藤勇次郎)曰四起ヨリ煤上リマテノ事ハ普通ノ説ナレト一應速ヘン先ツ四
 百目ノ蠶兒ヲ箆ニ宿ヒ而シテ之ヲ天井板ニ上ケテ冷氣ナルキハ下ヨリ焚火ヲ以テ
 程能ク温メ暖氣ナルキハ四方ノ窓ヲ開キテ空氣ヲ流通セシムヘシ又蛭蠶四百目位
 ナ宿フハ通常ナレト四百目ニテハ大繭出易シ故ニ之ヲ除クノ法アラハ承リタシ
 七番(八島成正)曰第一注意スヘキハ蠶室ニアリ故ニ蠶病ヲ發スルモ多クハ室内空氣
 ノ不流通ヨリ發スルナリ蠶ハ繭ヲ作り繭又蛾ヲ發スル自然ノ勢ヒナレハ通常ノ氣
 候則チ七十度ヨリ七十五度ヲ以テ空氣ノ流通ヲ善クシ養フキハ決シテ蠶病ヲ惹キ
 起スノ恐レ無キモノナリ之レニ反シテ不熟達ノ人ハ蠶室ヲ閉塞シ養桑ノ度ヲ過チ
 又ハ腐敗セシ桑杯ヲ與フルヨリ病ノ發スルヲ知ラスシテ或ハ曰ク之レ神ノ崇リナ
 リ杯云フハ何ソ其迷ヘルノ甚シキヤ又四起ヨリ火力ヲ用ヰテ七十度乃至七十五度
 ニシテ養フ人モアレト炭火ヲ以テ此度ニ至ラシムルハ甚タ本員ハ取ラサル所ナリ
 又十五番ノ問ハレシ大繭ノ多ク出サル法ハ箆ニ薄ク附ルヨリ他ニ良法ナキ様ナリ
 八番(大橋伊三郎)大繭ノ多少ハ第一蠶ノ種類ニアリト雖ト又タ煤上リ際ノ氣候ニ因

リテ大繭ノ多少アリ冷氣ノ年ニハ少ク暖氣ノ年ハ多シ何ントナレハ冷氣ナルキニ
 ハ蠶兒ノ運動遲キカ故ニ孤立シテ作ルナリ爲ニ大繭少シ暖氣過ルキハ蠶兒ノ運動
 烈シキカ故ニ或ハ寄り或ハ合シテ作ルカ故ニ大繭多ク出ルナリ

六十番(高橋久右衛門)曰大繭ヲ出サ、ル様ニスルニハ立テマヅシト云フモノ、方善
 キ様ナリ又餘リ風ノ吹キ拔ル處ニ置ケハ無益ノ糸ノミヲ吐ク故ニ注意シテ空氣ノ
 流通スル様ニスレハ大繭出テサルナリ

六十二番(佐藤林之助)蛭蠶ヲ箆ニ宿フニ餘リ丁寧ニ散布スレハ却テ大繭多ク出ル者
 ナリ

四十番(渡邊源兵衛)曰題外ニ渉ル様ナレト大繭ノ多少ハ蠶ノ生質ニ依ルヤ中巢ノ如
 キハ一割モ出ル様ナリ又夫ヨリ生質ノ劣リタルモノヨリハ一割五分乃至貳割モ出
 ルアリ是ハ八番モ云フ如ク蠶ノ生質ニ因リテ多少アルモノト信ス

五十一番(淺野徳右衛門)曰今四十番ノ説ニ大繭ノ生スル説アリ此ハ第一ハ蠶ノ質第
 二ハ氣候第三ハ蛭蠶ノ扱方ナルベシ

七番(八島成正)曰八番ノ述ヘテレタル如ク温暖ノ氣候ニハ桑ヲ多ク食セスノ蛇熟ニ至ルカ故ニ蠶兒氣早ニシテ且ツ身輕ナレハ運動烈シキ故ニ大繭多ク出ルナリ夏蠶等ニ至リテハ二頭或ハ三頭モ寄りテ作ルヲ見テ知ル可キナリ尤モ大繭多ク出ルノ種類ハ多クハ飼易キモノトス糸質ニ至テハ不良ナルモノナリ

六十番(高橋久右衛門)曰一昨年ナリシカ大繭ニ付キテ失敗シ却テ大繭多ク出テサル法ヲ經驗シタリ依テ述フ箴中ヘボツト宿ヒシニ十二大繭出タリ故ニ夫ヨリ丁寧ニ散布シテ宿ヒタルニ多ク出ザリキ

一番(佐藤伊三郎)曰大繭ノ出ルハ種類ニ依ルモノニシテ赤蛇ニ多ク出ルト限リシコナシ只早蛇スルト早蛇セサルトニアリ暖氣ノキハ早蛇スル故多ク出ルモ冷氣ノキハ早蛇セザレハ多ク出ルコナシ

十五番(加藤勇次郎)曰従前ヨリ種採リハ蛇上リ能ク熟シタルヲ拾ヒ糸繭取リハ若蛇キヲ拾フテ好シトスルノ例ナリ本員ハ種採ノミニシテ糸繭ヲ採ハ不明ナリ若蛇シハ糸繭ニシテ何等ノ結果アルモノナルヤ各員ノ高説ヲ承リタシ

七番(八島成正)曰従前ナリシカ聊試ミタル所アレハ答ヘン霜害ノ爲メニ番蠶ニ至リテ大ニ養桑ニ窮シテ七日目位ナリシカ殘ラズ熟蠶ニ至ラサルモ不得止悉ク箴ニ宿ヒシカ繭ハ熟蠶ト異ナルコナケレハ糸曳ノ際ニ至リテホゴレ惡シカリキ是ハ熟セサルヲ箴ニ上ケタルノ致ス所ナラン故ニ思フニ種採リ繭採リニ拘ラス熟蠶ヲ待テ宿フニ限ルベシ

五十一番(淺野徳右衛門)曰本會ノ日數モ早明日限リナレハ到底逐條繰下ケテ決了スル能ハス故ニ午前ニハ此飼養法ヲ了リ午後ヨリ生糸改良法ノ部ヲ講究センコトヲ希望ス

會長(近野元右衛門)曰於是之レヲ各員ニ圖ル又次項ノ十一條ニ移リテ意見ヲ述ヘテレヨ

十五番(加藤勇次郎)曰生糸改良法ハ掛田組ヨリ一應ノ説明ヲ乞ヒ疑ハシキ所ハ質問スルモノトシ此飼養法ヲ今明日中ニ悉ク盡シタシ

三十五番(八城太左衛門)曰此飼養法ハ一日位ヲ増延スルモ講究決了シタシ

五十一番(淺野徳右衛門)曰本會ハ素ヨリ生糸改良モ專要ナリト雖モ飼養法ヨリ漸次講究セサレハ不都合ナル故ニ斯ク題目ヲ掲ケタルモノナレハ前ニ述フル如ク是非一應ノ審案ヲ請求ス

會長(近野元右衛門)曰飼養法ヲ談シタシト主張スル人多キニ依リテ十一條ニ移リ充分ニ意ヲ述ヘラレシコトヲ告ク

書記起テ題目ヲ朗讀ス

第十一條

ゴロツキ蠶(蠶身軀肥太ニシテ)ナ何レニスレハ成繭スルヤ

八番(大橋伊三郎)曰身軀大ニシテ熟セサルモノハ多ク赤熟質ニ出ツ是ハ過食停滯シテ蛻期ヲ失ヒタルモノナレハ乏チ水ニ浸シテ上ルキハ熟スルナリ又因ミニ云ハン製種ノ際蛾ニ身体大ニシテ卵ヲ生マサルアリ之ヲ蛾ノ腹ノ方チ水ニ浸シ而シテ紙ニ上クレハ卵ヲ生ム此理ニ有ルモノト信ス

十番(鈴木彌作)曰本員モ此事ニ付キテ盡ク苦シミ居リシカ今八番ノ説ニ水ニ浸セハ繭ヲ作ルト蛾ノ腹チ水ニ浸セハ卵ヲ生ムトノ兩説ヲ述ヘラレシカ奈何ナル理由ナ

ルヤ

八番(大橋伊三郎)曰水ヲ桶ニ入レテ吸上ケテ掛ルモ口ニテ吸ハサレハ運動セザルカ故ニ出テズ又人間モ如此即チ躰レタルキ水ヲ掛クレハ蘇生スルノ理由ナリ

七番(八島成正)曰八番ノ説理ニ於テハ然ルモ是レハ蠶病ナレハ蛾ノ種ヲ生ムトハ異ナルモノニシテ空氣ノ凝滯又ハ養法ノ適ハサルヨリ發セシ病蠶ナレハ決シテ繭ヲ作クルノ糸ヲ持タヌモノト思ハル

八番(大橋伊三郎)曰蠶ニ糸無キモノハ一頭モナシ然ルニ身体肥太ナレハトテ糸ヲ持タヌトハ何等ノ事ヲ言ハルヤ

六十番(高橋久右衛門)曰七番八番ト論説セラル、チ本員ノ考フルニハ病ノ爲ニ糸ヲ出サヌモノト思フナリ其故ハ食物病ノ爲ニ腹中ニ滯リテ身体ノ肥太チ來スモノナレハ之レヲ防クニ空氣能ク流通シ暖氣ノ所ニ廻シ置ケハ此患ヒ無キ様ナリ

七番(八島成正)曰雌蛾ノ中ニモ子ヲ持タザルモノト人間ノ子ヲ持タサルト同一ナリ然ルニ病アルニ依ルトハ何事ソヤ本員ハ實驗セシニ熟スル期ヲ失ヒタルモノハ到

底熟セサルモノナリ

一番(佐藤伊三郎)曰身体大ニシテ繭ヲ掛ケサルモノ三分ノ一モ出ルコアリ是ハ殘ラ
ス糸ヲ持タサルモノナルヤ

七番(八島成正)曰肥大ニシテ熟セサルニ糸ナキモアリ糸アルモアリテ中々一様ニハ
行カザルナリ見ヨ死籠リノ如キ美ナル繭ニテモ終ニ黒汁出テ汚穢ノ繭トナルモノ
ナリ

四十六番(宍戸藤作)曰本員從來試ミシニ芯留メ桑等ノ水分多量ナルヲ與フレハ此病
ヲ發スルモノナリ八番ノ水ニ浸ス事ニ付テ云フニ本員經驗セシ事アリ右ノ芯留メ
桑ヲ水ニ浸シ引上ケ乾シテ與フレハ害ナシ之レ灌キタル水ニ引レテ内部ノ水ヲ引
出シ去ルカ故ナラン芯留メ桑ハ目方常ノ桑葉ヨリ百目ニ付三十目モ重シ是レ水分
ヲ多ク含有スルカ故ニ葉肥太シ居ルナリ
六十五番(八巻味右衛門)曰各員此事ニ付種々ノ奇説アレハ是ハ濕氣ノ爲メ体中ニテ
糸ノ腐レタルモノナレハ六十番ノ如ク早ク拾ヒ取り空氣ノ能ク流通スル場所ニ宿

ヒ置ケハ多少ノ繭ヲ得ルモノナリ

二十五番(阿部平二郎)曰此レハ水氣ノ爲メニ生セシモノナレハ別段ノ方法ナキ様ニ
思ハルハナリ

三十六番(八城權七)曰格別ノ法ハナケレハ其期ニ至リ肥太ニシテ熟セサルモノヲ拾
ヒ暖氣ノ所へ上ケ紙ヲ蓋ニシテ置クキハ一頭モ作ラサル位ノ蠶モ六七分位ハ作ル
モノナリ

四十番(渡邊源兵衛)曰本員モ是ヲ行ヒシ事アリ箴ニ宿ヒ紙ヲ蓋ニシ置クキハ三十六
番ノ説ノ如シ

一番(佐藤伊三郎)曰養蠶未開ノ地ニ至リテ芯留メ桑ヲ惡シト云ハ、蠶ノ出來ザル所
アルベシ本員ノ實驗ニ依レハ却テ此芯留メ桑鎌入等ハ望ム所ニシテ何程之ヲ掛ク
ルモ蠶ニ於テ別ニ差支ナキモノナリ

四十四番(横山清次郎)曰芯留メ鎌入等ノ桑ハ摘テ二三日モ置テ用ユレハ害ナキナリ
十番(鈴木彌作)曰三十六番四十番ノ説又芯留メ桑ノ説モ出タルカ其邊確ト覺語セサ

ル廉モアレハ今一應承リタシ

四十番(渡邊源兵衛)曰原由ハ判然セサレ肥太ニシテ熟セサル蠶ノ出ルハ生質ニ依ルモノ、如シ赤熟ニハ多クシテ青熟中巢ニハ同様ノ扱ヒニ爲スモ此病ヒ少ナシ是レ一ハ生質ニアリ二ハ飼養法ニ有リト云ハン

七番(八島成正)曰四十番ハ生質ニアリト云ハル、モ決シテ生質ニアルモノニ非ス只飼養ノ優劣ニヨルモノナリ

三十六番(八城權七)曰四十番ノ説ノ如ク生質ニアルモノナリ又寒暖ノ加減ニモアリ庭蠶ニ至リ注意シテ飼養スルモハ少ナシ

八番(大橋伊三郎)曰同説ナリ

十五番(加藤勇次郎)曰四十番ノ説ニ生質ニ依ルトアリ然ルニ本員従前四眠ナリシカ桑澤山ニ與ヒシニ大イニ肥ヒタル蠶ニナリ夫ヨリ之ヲ宿ヒシニ皆流蠶ニナリシヲアリキ

十番(鈴木彌作)曰之ヲ奈何シテカ出テザル法アラハ承リタシ

七番(八島成正)曰肥太ニシテ熟セサル蠶ノ出ルハ生質ニアリト云フ諸君ノ説モアレ

ト決テ生質ニアルモノニ非ス飼養法ノ優劣ニ據ルモノナリ養法ハ大同小異ナレモ此飼養法詳細ニ至テハ本會僅々ノ日數ニテ容易ニ盡シ難ケレハ後會ニ述ン

十番(鈴木彌作)曰容易ナラサル事ト云ハルレモ此蠶病ハ又一層容易ナラサル要件ナレハ簡單ニテモ承リタシ

四十番(渡邊源兵衛)曰七番等ノ村方ニテハ右等ノ病蠶ハ一頭モ出ザルカ後學ノ爲メ承リタシ

七番(八島成正)曰本村ニテハ未タ勉勵中ナレモ本員ノ考ルニ飼養サヘ充分ニ爲タラシニハ一頭モ右様ノ病蠶ハ出テザルベシ

四十番(渡邊源兵衛)曰姫蠶等ヲ飼フニ如何ニ養フモ右病蠶ハ一頭モ出サルニ赤婁性ニハ同様ニ養フニ一枚ノ葉座ニ六頭モ七頭モ出ル是ハ本員一己ノ經驗ナレハ七番

ニ傳習ヲ承ケタシ

七番(八島成正)曰蠶ハ動物ナレハ生質ニ因ルニアラズ例ヒ青婁ト雖モ扱方粗漏ナレ

ハ出ストハ限ラレマシ

四十六番(宍戸藤作)曰本員モ生質ニハ因ラサルカト思ハル其故ハ食少ク與フレハ出スシテ多ク與フレハ出ツル一体此病蠶ハ却テ善キ蠶ニ出ルナリ又々留メ桑ノ悪キハ各員承知ナレハ敢テ此ニ賛セス

五十五番(朝倉鉄藏)曰五七年前ナリシカ桑畑ニマクロナ肥養ニ用サシニ右病蠶大ニ出テタリ四十番等ハ生質ニ依ルトアルカ是ハ扱方ニ依ルナリ

番外(渡邊五等屬)曰本員ノ如キ不知案内ノモノ各員ノ高説ニ喙ヲ入ル、ニ非ラザルモ一應參考ノ爲メニ述ベシ此蠶病ヲ起スハ多ク濕氣ニ關係スト信達ノ如キハ蠶ノ本場ナレト未タ行届カサル様ナリ伊達郡ニテハ既ニ傳習所等モ設ケアル位ナレハ濕氣ヲ防クノ法ヲ求ムヘシ之ヲ防クニハ則チ濕氣計外國ヨリ求ムヘシ此計ハ晴天ノ時モ濕氣ノ有無ヲ判別スト是ヲ用サハ大ニ益アラシ

會長(近野元右衛門)曰本條モ大体盡キタル様ニ思ハルレハ休憩喫飯セント時ニ零時十分ナリキ

四月十五日午后第一時二十分開會出席會員午前ニ同シ

副會長(近野元右門)曰止ムヲ得サル事故アリテ欠席セリ依テ會長(渡邊源兵衛)會長席ニ復ス六十八番(丹治梅吉)參着セリ

番外(渡邊五等屬)曰課長横川氏此會ニ臨ミ一言スヘキ所ナレト明日東京出發ニ付本員代テ一言ス本縣勸業ノ趣旨此會ヲ以テ第一トスルモノナレハ各員願クハ各自ノ蘊奧ヲ叩キ其所見ト實驗トヲ充分討論駁議シ將來永續センコトヲ希望スル所ナリ會長(渡邊源兵衛)曰午前ノ續キ第十一條ニ付キ意見ヲ述ラレンコトヲ告ク

十五番(加藤勇次郎)曰午前種々ノ説アリテ四十番ハ種類ニ依リテ肥大ノ蠶病出ルト云ヒ七番ハ飼養ノ拙キヨリ右病蠶ヲ出スト述ヘラレタリ此ノ飼養法ニ於テ未タ十分ノ研究ナケレハ一應其方法ノ緻密ヲ聞キタシ雖然凡物ニ適度アルモノナレハ五頭十頭位ノ病蠶出ルヲ厭ヒ管只養桑ノ薄キヲ善トセハ却テ害ヲ醸サン又肥大ノ蠶ノ出ル位ヲ善シトシテ餘リニ桑ヲ多クノミ與ヘハ下濕リテ益々病蠶多ク出シ四十番モ熟達ノ人ナリ如何ニ扱フモ種類ニ依リテ必ラス病蠶出ルト斷言シタルニモ非

會長(渡邊源兵衛)曰本條モ概略盡タル様ナレハ次條ニ移リ講究サルヲシ然レモ本會
モ明日丈ケナレハ飼養モ一通リ述ヘタレハ餘條ヲ措キ生系ノ部ヲ會談スベシ各員
其レ之ヲ了セヨ

四十一番(安田延作)曰生系ノ部ニ移ラザル内十二條ヲ談セラレクシ是ハ大切ナル者
ナレハナリ

會長(渡邊源兵衛)曰十二條ハ明日午後ニ談スル者トシテハイカ、

四十一番(安田延作)曰繭撰方ハ生系ヲ改良スルノ原因ナル故十二條丈ケヲ談シ夫ヨ

リ生系ノ部ニ移リタシ

十五番(加藤勇次郎)曰四十一番ノ説ハ一舉兩得ノ法ナラント思ハル故ニ四十一番ニ

同意ス

於是會長(渡邊源兵衛)曰第十二條ノ項ヲ談スルニ決シ而シテ此項ニ付充分意見ヲ述ヘ

ラレンコトヲ告ク

書記起テ題目ヲ朗讀ス

第十二條 種繭ノ撰方法ノ事

八番(大橋伊三郎)曰此種取ノ繭ヲ撰ムハ容易ナラサルモノナレハ一通リ簡單ニ述ノ

繭ノ撰種法ハ先ツ大小不片寄中邊ヲ撰ム可シ之ヲ大ニモ小ニモ改正セント欲スル

ニハ俄ニスルハ惡シ漸々年々逐テ改ム可シ俄ニセントスレハ性質ヲ變スルナリ繭

ノ種類ハ赤蛇ノ繭ノ形ナハ方言(ドデヨウロ) 是ハ少シク繭長クシテ 兩端少シ尖リタル方 中ノクビ

レハ不深不淺シテ二本筋ヲ帶ヒ皺ハ縮細チ、ラノ深キヲ善トスト雖ヒ皺ノ大小ハ

繭ノ大小ニ應シタルヲ撰ムベシ繭大ニシテ皺小ニ淺キハ剝ケ難シ繭小ニシテ皺大

キジ縦皺ナルハ質節多シ系ノ細太ハ繭一粒ノ糸目四百廻ニテデニール三ツヨリ三

ツ半ヲ極度トス夫ヨリ重キハ太キニ過テ惡シ尤モドデヨウロ繭質ハ上等ナリト雖

ヒ扱方ムツカシク又繭丸形ニテ中ノ帶筋淺キハ飼ヒ易シ雖然系ノ量目ハドデヨウ

ロニハ不然ナリ從前當郡川俣製産輕目絹ノ縱糸四反續キニテ從來四十匁ヨリ四十

五匁迄ヲ以テ極度トセシヲ嘉永ノ始メニ至リ赤蛇ノ質ニテ量目多キヲ專ラトシ繭

ノ大イナルヲ撰ミ生繭一粒ノ目方八分ヨリ八分二三厘位ヲ撰ミタルニ縦糸五十五
匁位ニ騰リタルカ故ニ一時赤熟質ノ繭廢セシヨリ其后追々改良シテ當今ノ良質
ニ至リタルナリ雖然當時ノ撰方最早繭形最上大イニ成リタレハ是ヨリ大イニス可
ラサルナリ

一番(佐藤伊三郎)曰吾地方等モ近年赤々蠶繭大イニシテ惡シクナレリ川俣平絹ニ試
ルニ従前ノ如ク五六粒ヲスルニ縦糸重キニ過ク依テ五粒ヲ以テ試ルニ四十四匁位
ニテ適當セリ赤々ト雖ヒ皆大イナルモノニ非ラザレハ注意シテ糸緒細クナル様ニ
撰ム可キナリ

二十五番(阿部平次郎)曰赤々ノ繭大イナル惡シト云フハ如何ナル故ニヤ

一番(佐藤伊三郎)答惡シト云フニハ非ラス八番ノ述ラレシ如ク繭大イナレハ糸緒
太キカ故ニ注意シテ撰ム可シト云フノミ

七番(八島成正)曰八番ノ述ヘラレシハ實ニ良説ナリ此レハ大切ナルモノニシテ赤々
ト雖ヒ飼養法及繭ノ精撰方ノ拙ナケレハ三年モ經ルキハ青々ニ變スルハ疑ヒナシ

故ニ撰繭方ハ尤モ以テ注意シテ撰ム可シ然ルモ不熟達ノ人ハ繭ノ大イナルヲ好シ
ト思ヒ撰ム故質モ變シ糸緒モ惡ク節モ出ル様ニ成ルナリ大概糸ノ太ク出ルハ皺ニ
依ルナリ皺大ナレハ糸モ從テ大ク出ルナリ皺小ナレハ糸緒モ亦細ク出ルナリ故ニ
青熟ヲ撰ムニモ成可ク節ノ出サル様ニ繭ヲ撰ムヘシ蠶種家ニテモ必ラス良不長無
キヲ得ス悉ク注意スヘキヲ緊要中ノ緊要ナルモノナリ又條目外ニ亘ルカ如クナ
レヒ蛾ノ孳尾ニモ關係アリ赤々ノ蛾ニ青々ノ蛾ヲ付ケ又離レタルヲ其儘ニ捨テ置
ク様ニテハ精良ノ蠶種トハ云ハサルモノナリ蠶ヲ撰ミ繭ヲ撰ミ孳尾ニモ能ク注意
スベキヲ肝要ナリ

六十二番(佐藤林之助)曰各説ト異ナルナケレヒ少シク述ン赤々青々ニ拘ラス中繭ニ
シテ振リ善ク少シク長ミアリテ皺モ大ナラス小ナラス少シク深ク撫レハイラノ
スルモノヲ撰ム可シ又帶ノ締リハ餘リ締ラスシテ中位ナルヲ善トス帶締リタルヲ
善ト思ヒテ撰ム人モアリ是ハ翌年必ラス振リ變スルモノナリ
四十一番(安田延作)曰皺ノ深ク入りタルハ糸ニ緑リテ節多ク揚ルモノナリ

四番(菅野作次郎)曰只今六十二番赤姥青姥ニ拘ラス中繭ヲ探ルトアリシカ如何ナル故ナルヤ

六十二番(佐藤林之助)答夫レハ概シテ博ク述ヘシナリ

四十一番(安田延作)曰糸ヲ繰ルニ鬼繰ハ能クホゴレザレハ中等ノ振リヲ撰ムニ限ルヘシ

十五番(加藤勇次郎)曰帯ノ締リト皺ハ如何ナルモノヲ撰ムヤ

七番(八島成正)答皺モ種類ニ依リテ撰ムヲ善トス赤姥等ハ繭ノ形鱈口ノ様ニシテ帯ノ堅ク締リタルヲ善トス之ヲ撰ムニ帯ヲ壓シテ皮ニ不平均ナキヲ取ル皺ハ大ナラズ小ナラズ中位ニシテ判然タルヲ撰ムベシ又不充分ノ蠶ヨリ採リタルハ不充分ノ蠶ニ成ルナリ故ニ赤姥ノ繭ノ質ヲ存セント欲セハ前述ノ如キ撰法ヲ第一トス又青姥ト雖モ之レニ異ナルコトナシ

五十一番(淺野徳右衛門)曰夫レ種繭ヲ撰ムハ養蠶家ノ實ニ貴重ナルモノニ本員モ多年苦慮スル所本會諸君ノ名説ヲ聞キ満足ヲ得タリ且ツ本員モ少シク經驗セシコ

アレハ玆ニ陳ベン方今吾カ地方ノ繭ヲ大別シテ四種トナス而ツ各種撰繭スル必ス其固有ノ質ヲ失ハサルヲ第一トス譬ハ今青質ヨリ赤質ニ彷彿シタルモノヲ撰マントスルキハ其製系上ニ於テ甚タ苦シム所ナリ且ツ良品ヲ得サルナリ故ニ本種繭ハ其實普通ヨリ三割口モ小サナルモノニシテ縮ハ浮亂セス又縦ニ少ク短キモノヲ撰ムチリ如何トナレハ繭ハ自然長クナルコト安ク是ノ結メル苦シムモノナレハナリ

四十一番(安田延作)曰本員モ一昨年前ヨリ青姥ヲ廢シテ赤姥ニセリ此撰方ハ鱈口ヲ撰ル其形ハ平均ヨリ如シク小繭ニシテ帯一筋ナルヲ撰ムナリ

八番(大橋伊三郎)曰皺ト繭ノ形ヲトノ原因ヲ述ノ先ニ蠶ヲ飼フニ厚薄ノ説アリシカ五齡蠶五日目位ニ至リテ葉座ノ數ヲ八掛位ニ減シ飼養スレハ皺能キ程ニナリ繭ノ形ヲ中等ニシテ善キ程ニナルナリ又本員ハ從來一種ノ蠶兒ヲ二様ニシテ養フナリ例ヘハ葉座千枚ノ内五百枚ハ蠶兒ニテ撰ミタルヲ飼ヒ五百枚ハ繭ニテ撰ミタルヲ飼ヒ蠶撰ト繭撰ト互ニ隔年ニ撰ムナリ如斯スルトハ蠶質ハ勿論皺形ヲトモ變換スル事無キナリ

四十一番(安田延作)曰絹ヲ織ルニ縦糸トスルハ何種質ヲ以テ善シトスルヤ承リタシ
一番(佐藤伊三郎)答縦糸ニスルニハ春蠶ト夏蠶ト掛ケ合セタルアレト是ハ糸緒細シ
ト雖モ必ラス惡シ赤姥ニシテ繭小サシ糸緒細ク五粒ニテ繰ランヨリ六粒ニテ可繰
繭ニテ彈力强キヲ善シトス

四十六番(宍戸藤作)曰質ノ變ハラサル様ニスルニハ蛾ノ雌雄ヲ半々位ニ能ク撰ムヘ
シ又皺ハ各員ノ説ト異ナル所ナシ

四十五番(大竹甚右衛門)曰繭ニ大小ノ説多シ之ノ繭ノ長サ幾分周圍幾程トカ大中小
ノ區別アラハ承リタシ

七番(八島成正)曰夫レハ粗漏ニセシ故只今ノ答ニハ差問フルナリ雖然製種ノ赤姥中
巢ヲ撰ムニハ一升二百二十粒入レ位製糸家ニテハ二百七八十粒位ヲ至當トセン
於是十五番(加藤勇次郎)十番(鈴木彌作)等曰四十五番(大竹甚右衛門)四十四番(横
山清次郎)ニ經驗説ヲ述ヘラレンコトヲ促ス

四十四番(横山清次郎)曰各員ト同説ナレト皺ハ縮緬ニシテ中縊締メタルヲ撰ムナリ

帶ハ一本筋ノ繭ヲ撰ミ但シ撰リハ一藁座ヨリ七八粒位ヲ撰出スナリ中巢ノ形善キ
ヲ第一ト思ハル

十五番(加藤勇次郎)曰年々撰ムニハ大ナルヲ撰ルヤ小ナルヲ撰ムヤ

四十四番(横山清次郎)答中ヨリ少シク小ナル方ヲ撰ムナリ

七番(八島成正)問壹升ニ付何粒入位ナルヤ

四十四番(横山清次郎)答壹升平ニ計リ三百六十粒入ニシテ量目百二十五匁位ナリ

十五番(加藤勇次郎)曰四十六番ノ説ニ雌雄ヲ撰分ルニハ如何シテスルヤ承リタシ

四十六番(宍戸藤作)答雌ハ丸ミアリ雄ハ少シク長ミアリ是モ長ク試ミザレハ判然セ

サルナリ

十五番(加藤勇次郎)曰七番ニテ赤姥ノ青姥ニ變スルノ理由ヲ述ヘラレシカ撰方ナル

ヤ聞置キタシ

七番(八島成正)答是ハ撰方且ハ飼養上ニ注意セサレハ三四年ニシテ殘ラス青姥ト成
ルナリ故ニ蠶種製造家ニテモ十分注意シテ撰繭方法及ヒ飼養モ能ク注意セサレハ

變スルヲ現然タリ

八番(大橋伊三郎)曰夫レハ經驗セシヲアリ青熟チ青白ニ變セシムルハ容易ナルモノナリ其法ハ青雉ノ繭ニハ少シク笹色ヲ含ミタル繭出ルモノナリ是ヲ漸々撰上レハ純然タル青白ニ變スルナリ一体青雉ノ糸ヲ練上レハ青白糸ノ類似ニシテ少シク青ミチ有スルモノナリ

會長(渡邊源兵衛)曰本條モ概シテ盡タル如クナレハ次項ニ移リ十三條繭取扱方ヲ講究セラレシヲ告ケ書記ヲシテ朗讀セシム

書記起テ題目ヲ朗讀ス

第十三條 繭取扱方ノ事

會長(渡邊源兵衛)曰意見アルニ付副會長ニ讓リ四十番ノ席ニ就ク副會長(近野元右衛門)代テ會長席ニ着ク

四十番(渡邊源兵衛)曰繭燥殺ノ期ハ大切ナル者ニシテ姥上リヨリ九日目十日目ヲ期限トス(但繭ノ中ノ蠶サナキニ返リタルヲ期トス)此期ヲ失スレハ繭ニ害ヲ生ス其

期ヨリ死籠リ玉繭等ヲ取除キテ燥殺ス從前蒸藏ニテ燥殺セシモ夫レハ平均ナラザルノ恐レアレハ蒸箱ヲ造リテ燥殺スル方ヨロシ箱ノ造リ方ハ同寸法ノ箱ヲ二ツ造リテ重ヌルナリ下ノ箱ハ只火ト繭トノ間ヲ距離サスル爲ナレハ売箱ナリ上ノ箱ニ繭ヲ入ル、ナリ寸法ハ縱四尺横二尺六寸高サ二ツ共一尺ツ、然シテ上ノ箱へ竹籠ヲ布キ其上へ濡薦ヲ布キ又其上へ紙ヲ布キテ繭二斗五升ヲ入テ箱ヲ重テ爐ノ上へ載セ爐ニハ炭凡二百五十目位ヲ入レ火ト繭トノ間二尺位離ス蒸箱ニハ四方ニ小孔ヲ穿テ空氣ヲ通ハシム然セザレハ火消ルカ故ナリ上ニ澁紙ヲ掛ケ又蒲團カケツトヲ覆ヒ茶碗ニ水ヲ入レ箱ノ隅ニ置ク之ハ燥殺ノ加減ヲ計ル爲ナリ夫ヨリ三時三十分間位置キ水ニ指ヲ入ル、ト堪難キ位ニ熱ク但湯暖計ノ度百二十五度位ナリ之ヲ燥殺ノ期トス夫レヨリ蒸タル繭ヲ藁座へ移シ置キ漸次如是ニシテ晝夜ニ燥殺スルナリ又蒸シタル繭ノ取扱方ハ時々手入ヲナスニ手返ニテハ手ノ廻ラサル方出レカ故ニ繭ヲ入タル藁座ノ上ニ空藁座ヲ覆ヒ二ツ共上下ニ轉覆シテ空藁座ニ移シ換ルナリ如是スレハ繭不殘動搖スルカ故ニ大ニ宜キナリ夫レヨリ蠶ヒザル様ニシテ雨

天ノキハ薄ク散布シ又火烟ノ入ラサル様ニシテ貯ヒ置クナリ

五十一番(淺野徳右衛門)曰蒸箱ト室ニテハ何レカ善キヤ七番四十番ニ承リタジ

七番(八島成正)答四十番ト大概同シ室ヨリハ蒸箱ノ方好キ様ナリ本員ハ蒸箱ハ大イ

ニシテ二尺六寸ニ六尺位ニシテ高サ一尺位ナリ其仕方ハ箱ニ竹簾ヲ布キテ火ト繭

ノ間一尺七寸位ヲ離テ繭ヲ置クニハ濡レリウキウチ布キ爐ノ炭ハ四隅ニ置キ熾リ

タルキハ葉灰ヲ掛ケ繭五六斗ヲ入レ冷水ヲ土瓶ニ入レ三時三十分間位ヲ置ケハ湯

暖計百二十五度位ニナル之ヲ期トシテ揚ケ一時間モ置テ五升位ツ、葉座ニ入レ置

クナリ繭扱方ハ四十番ノ如ク追々手入シ又折々ハ盥ニ入テ手入ス必ラス五日置位

ナリ霖雨ナトニテ蠶ントスルキハ蒸籠ニ掛ケ平常ハ戸ヲ開キ風ノ融通ヨキ所へ貯

エ置クモノトス

會長(近野元右衛門)問五斗位ツ、入テ晝夜何程燥セルヤ

七番(八島成正)答五石位ナリ

一番(佐藤伊三郎)曰本員ハ蛭上リ九日十日目ニ室ニ入ル其法ハ箆ヨリ搔キ卸シテ毛

纏ミセスシテ葉座ニ紙ヲ布キ繭ヲ入レ其上ニ紙ヲ掛ケテ室ニ入ル一晝夜置ク位ナ
レハ宜シケレト追々入ル、カ故ニ十二時間位ニテモヨシ其伸縮ハ炭火ノ緩急ニ依
ルナリ此如シテサナキノ節三節縮ムヲ期トシテ出シ葉座ニ散布シ二度ハ室ニ入レ
ス扱方ハ霖雨ノキハ澁紙ヲ布キ繭ヲ並へ又其上ニ紙ヲ掛ケ置キテ糸ニ線ルキニ始
メテ毛カラミスルナリ

會長(近野元右衛門)問赤蛭ノ繭等ハ三節縮ム迄置ケハ時間長ク掛ルヤ如何

一番(佐藤伊三郎)曰三節縮ム位ヲ計リテ取揚ク只蛹ヲ殺ス爲ナレハナリ太陽ニテ干

スモ三節ヲ期トセシモノナレハナリ又霖雨ノキハ蠶ヲ扱フト同様ニシテ平常モ四

五日置ツ、ニ手入スルナリ

會長(近野元右衛門)問盥ヲ用非シ事ナキヤ

一番(佐藤伊三郎)答用非シヲ有リ葉座ヨリモ便利ナリ

四番(菅野作次郎)曰本員モ室ニテ殺セシヲ有リ先ツ其法ヲ述ン炭壹貫目位ヲ室ニ入

レ三時間モ經ルキハ百八十度位ノ度ニ至ル夫レヨリ一時位ヲ過キタルキ又炭二三

百目次キ六時間モ過ル頃ハ火ハ灰トナル故始メテ繭ヲ取出スナリ藁座ニハ紙ヲ布カス上ヘ計リ紙ヲ掛ケテセシカ糸ニ線リテ光澤ヲ損セリ故ニ室殺ハ如何ニシテモ光澤ニ關係ヲ起ス故蒸籠ニテ燥殺スルニハ不如ナリ扱方ハ冷氣ノキハ蠶室ニ少シ火ヲ置ケハ別ニ異ナル手數ニ不及ナリ

六十番(高橋久右衛門)曰蒸籠ニテモ室ニテモ注意スレハ格別ノ差アララス室ニ入ル、キハ一番ノ如ク毛カラミセス室中へ烟等ノ入ラサル様ニス可シ本員第二回博覽會ノ時取急キ蒸シ度思ヒ室ノ一番上ニ上ケテ他ノ繭二三度モ上ル内誤テ構スニ置キシカ三等有功賞ヲ賜リシアリ

五十五番(朝倉鉄藏)曰生繭ヲ買ヒ翌年迄持テタル經驗ヲ述ノ四十番ノ述ヘタル様ニテハ間ニ合ハズ故ニ室ニテ殺セシカ手廻ルナラハ蒸籠ニシタキモノナリ如何トナレハ室ハ火力ノ廻リ方一定ナラスシテ繭ニ濕チ帶フルノ憂ヒアリ蒸籠ニテスルハ湯暖計百三十五度位ニテセリ扱方ハ蠶ニ入レ五日目毎ニ篩ヒテ繭ヲ動カス然ラサレハ醯虫ノ出ル恐レアリ雨天ノキハ火力ヲ用サル宜シトス

八番(大橋伊三郎)曰蛭上リテ九日目十日目ニテ燥殺スルハ何種類ニテモ同シキヤ四十番(渡邊源兵衛)曰蛭上リテ一夜ニ巢籠ルモノナレハ九日目十日目ハ曇天モアリト見做シテナリ又暖ナレハ八日目位ニテ宜シキナリ種類ニ依リテ丸巢ナトノ皮薄キ質ハサナキノ返リモ少シク早ケレハ格別ノ差ナカルベシ

會長(近野元右衛門)問五十五番ハ室中ニ水ヲ入レシトアリヤ水ヲ入ルレハ不同ナキ様ナルガ空氣ノ凝滯スル爲ナルカ

五十五番(朝倉鉄藏)答注意シテ能ク蒸セハ不同ニナルナリ此不同ニナルモノヲ火ヲ少シク弱クスルキハ蛾出ルトアリ是則チ不同ヲ來スノ証ナリ

四番(菅野作次郎)曰水ヲ三升程入レ置ケハ六時間モ經テ上ルモノナレハ不同ヲ來スノ憂ヒナキ筈ナリ

五十五番(朝倉鉄藏)曰夫レハ火力ノ強キ故一々切リテサナキヲ見レハ自ラ明瞭ナラ

八番(大橋伊三郎)曰本員酒造家ナレハ室ノ体裁ハ案内ナレハ室ハ如何ニ注意シテモ

角々ニハ火力廻リ難ク不同チ生スルモノナリ

一番(佐藤伊三郎)曰四番ハ永ク室ニ入レ置クキハ剝ケ難シトアリシカ實驗チ示サレ
タシ

四番(菅野作次郎)答永ク入レ置クキハ繭締ル故早ク死シタルハ剝ケ宜ク後レテ死シ
タルハ剝ケ惡キナリ

五十一番(淺野徳右衛門)曰昨日幹事四名ヲ撰マレタルガ信夫郡ニ一名ニテハ足ラサ
ル故今一名ヲ公撰サレタシ

四十番(渡邊源兵衛)曰信夫郡一名ニテハ相談等モ差支フルヲ有ラン依テ五十一番ノ
如クシタシ

會長(近野元右衛門)曰本條モ略ホ盡タル様ナリ且ツ時間モ經過シタレハ休談セント
于時五時三十分ナリ

四月十六日午前第十時開會出席會員二十七人欠席十七番(桃井與五右衛門)
會長(渡邊源兵衛)曰本日ハ閉場ニ付役員ヲ設置シテ而シテ昨日ノ續キヲ會談セン又

各員ノ中ヨリ七名本會日誌調査委員ヲ撰ムヘシト於是各員異議ナシ依テ會長指命
シテ十五番十二番二十五番十番八番五十一番七番ヲ撰舉セリ而シテ本日ハ縣廳ニ
公用アルニ付七番ニ會長席ヲ讓ル七番(八島成正)假ニ會長席ニ就キ昨日ノ項目ニ
續キテ意見ヲ述ヘラレシコトヲ告ク

四十一番(安田延作)曰室ノ内ニガラスチ張り置クキハ中見エテ宜シキ様ナリ

三十六番(八城權七)曰昨日モ喋々高説アリシカ蒸籠ニテ取出ス期チ計ルニハ水ヨリ

モ柿ノ葉宜シキナリ柿ノ葉漸次萎シテ一時間モ過ルト葉ニ露ヲ持ツナリ此時繭チ
取出セハ善ク乾燥シテ宜シ然レモ此期チ窓ツキハ乾シ過ルノ憂アリ葉ハ則チ繭ノ

前後ニ入レ置クナリ

二十九番(芳賀甚七)曰地中へ三尺ニ三尺五寸位ノ穴チ堀リ深サ三尺位ニシテ此中へ
棧チ渡シ深サ三尺巾二尺長二尺五寸位ノ箱二重チ載セ箱ノ下へ紙チ張りテ繭チ入
ル炭ハ壹貫五百目位チ入レ熾リタルキ上ニ藁チ燒キ而シテ霧チ吹ク又箱ノ左右ニ
小穴チ鑿チ置キ火力強キキハ孔チ開キ弱キキハ孔チ塞ク火ハ一日限り置クモノト

ス蘭ノ量ハ一度ニ箱二ツニテ一斗八升位ナリ
五十五番(朝倉鉄藏)問水ヲ吹キ掛クルハ何ノ爲ナルヤ
二十九番(芳賀甚七)答火力ハカリニテハ乾燥過ル故霧ヲ吹キ掛ケ火力ヲ柔軟ニスル
ナリ

一番(佐藤伊三郎)問何等ノ爲ニ火力ヲ柔カニスルヤ

二十九番(芳賀甚七)答藁灰ヲ燒キ霧ヲ吹クトキハ火力程能ク廻ル故ナリ

會長(八島成正)曰本條モ略ホ盡キタル如クナリ且時間モ至リタレハ休談シテ喫飯セ

三ノヲ告ク于時十二時三十分ナリ

四月十六日午後一時十五分開會出席會員午前ニ同シ

會長(渡邊源兵衛)席ニ着キ各員ニ向テ曰先刻參廳セシハ他ニ非ラス今會ノ篤志ニ依

テ金百圓會費補助トシテ下賜セラレタリ依テ之ヲ各員ニ報道ス

五十一番(淺野徳右衛門)曰午前ニ定メラレタル日誌調査委員ヲ二名ヲ増員セラレタ

シ

七番(八島成正)及四十一番六十二番五十一番ヲ贊成ス

會長(渡邊源兵衛)曰指命ニテ定メンカ公撰ニテ定メンカ

七番(八島成正)曰指命ニテ撰定セラレタシ

於是會長(渡邊源兵衛)指命ニテ十三番廿九番ヲ撰拔ス

會長(渡邊源兵衛)曰是迄ニテ談話モ略ホ盡キタルカ如ク且時間モ逼リタレハ是ニテ

閉場セン夫ニ付只今少書記官臨席アル由ナレハ各員夫レ之ヲ了セヨ

于時午後三時三十五分村上少書記官臨場アリテ閉場式ヲ行ハル于時書記官演說アリ

左ニ

本會モ本日ヲ以テ全ク閉場アリ予ハ會場中公務多忙ニシテ臨席スル能ハサリシ

ハ遺憾ナリト雖モ聞ク所ニ依レハ各員各自ノ實業經驗ヲ充分ニ吐露シ談話討論

以テ其蓋奧ヲ盡セシト且會費ノ如キハ自ラ進テ相償ヘ飽迄養蠶普及ノ途ヲ開カ

ント焦心盡力セラレハ縣廳ノ大ニ満足スル所ナリ尙一層ノ勉勵ヲ盡シ他日其

効果ヲ見ント切ニ企望ニ堪ヘズ

會長渡邊源兵衛各員ニ代テ答詞ス

不肖等尙勉勵シテ閣下ノ盛意ニ應スベシ謹テ奉ス
右畢テ滿場會員退場ス于時午後第四時三十分ナリ

一本會ノ費用御補助トシテ縣廳ヨリ金百圓ヲ賜ハル

一本會ノ寄附金左ノ如シ

一金拾圓

一金五圓

一金五圓

一金三圓

佐野理八

大橋伊三郎

淺野徳右衛門

芳賀甚七

群馬県立図書館



0497919-1

小野寺文庫

